

地域福祉に関するアンケート調査 調査結果報告書

令和3年3月

羽 曳 野 市

社会福祉法人羽曳野市社会福祉協議会

目 次

I	調査概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査項目	1
3.	調査の設計	1
4.	回収状況	1
5.	報告書を見る際の注意事項	1
II	調査結果	2
1.	回答者の属性	2
2.	最近の生活状況について	5
3.	近所とのつきあいや地域活動などについて	8
4.	福祉への関心について	21
5.	ボランティア活動について	24
6.	福祉に関わる支援者等について	30
7.	各種制度等について	37
8.	災害時の対策について	40
9.	生活上の悩みや手助け等について	44
10.	今後の福祉行政のあり方について	50
III	資料編（調査票）	55

I 調査概要

1. 調査の目的

地域住民が支え合い、誰もが安心して暮らせる福祉の実現に向けた「第4期地域福祉計画及び第4期地域福祉活動計画」の策定にあたり、市民の地域福祉に関する現状や意見を把握し、市の施策や計画の基礎資料とするために実施した。

2. 調査項目

- (1) 回答者の属性
- (2) 最近の生活状況について
- (3) 近所とのつきあいや地域活動などについて
- (4) 福祉への関心について
- (5) ボランティア活動について
- (6) 福祉に関わる支援者等について
- (7) 各種制度等について
- (8) 災害時の対策について
- (9) 生活上の悩みや手助け等について
- (10) 今後の福祉行政のあり方について

3. 調査の設計

- ・調査対象：羽曳野市内にお住まいの18歳以上の男女 2,800人
- ・調査方法：無作為抽出による郵送配布・郵送回収
- ・調査期間：令和2年8月13日（木）～ 令和2年8月28日（金）

4. 回収状況

対象者数	有効回収数	有効回収率
2,800人	1,426人	50.9%

5. 報告書を見る際の注意事項

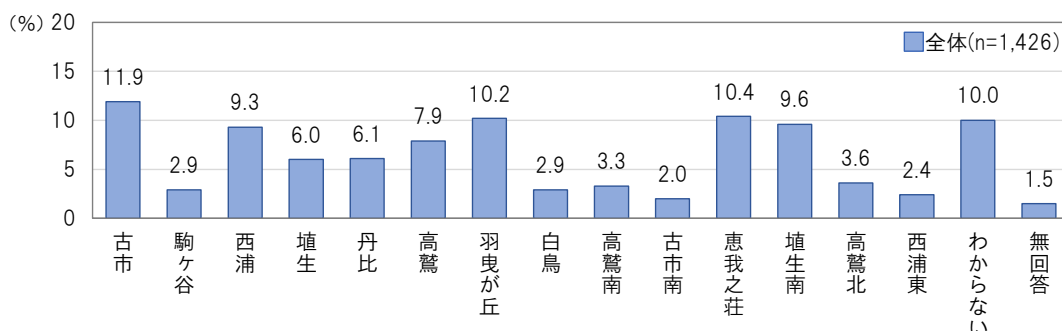
- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してある。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。
- サンプル数が少ないものについては、コメントを割愛している。
- 年代別クロス集計表については、1番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。なお、割合が同じ回答が複数ある場合は、3項目以上に網掛けをしている場合がある。

Ⅱ 調査結果

1. 回答者の属性

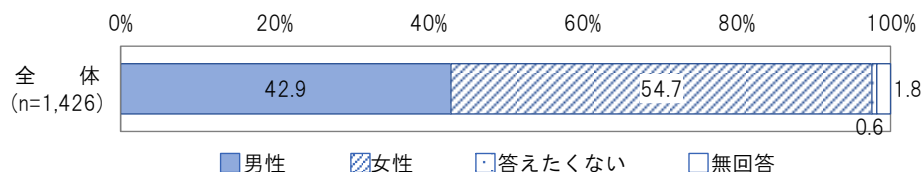
(1) 居住地域

- ・回答者の居住地域は、「古市」が11.9%と最も多く、次いで「恵我之荘」(10.4%)、「羽曳が丘」(10.2%)、「埴生南」(9.6%)、「西浦」(9.3%)の順となっている。



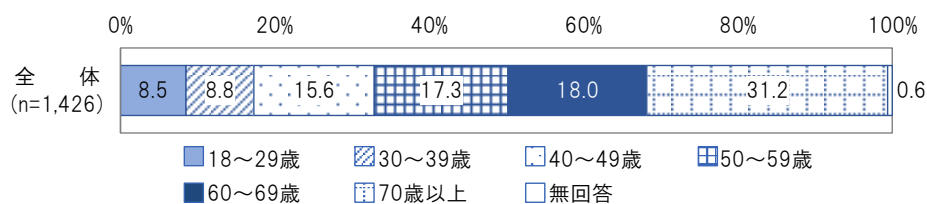
(2) 性別

- ・回答者の性別は、「男性」が42.9%、「女性」が54.7%となっている。



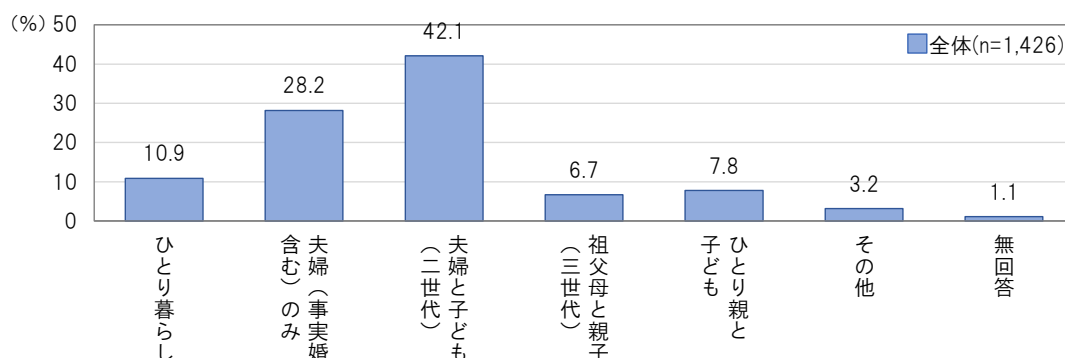
(3) 年齢

- ・回答者の年齢は、「70歳以上」が31.2%と3割を超えて最も多く、次いで「60～69歳」(18.0%)、「50～59歳」(17.3%)の順となっており、『60歳以上』が約半数を占めている。



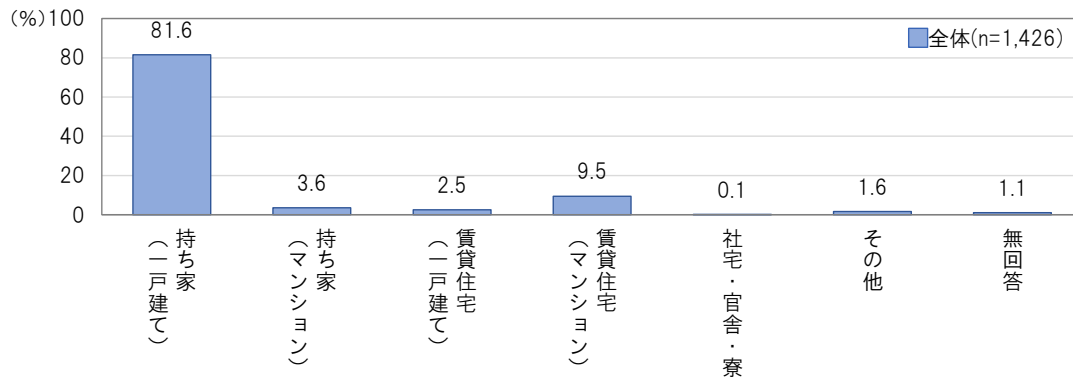
(4) 家族構成

- ・回答者の家族構成は、「夫婦と子ども(二世帯)」が42.1%と4割を超えて最も多く、次いで「夫婦(事実婚含む)のみ」(28.2%)、「ひとり暮らし」(10.9%)の順となっている。



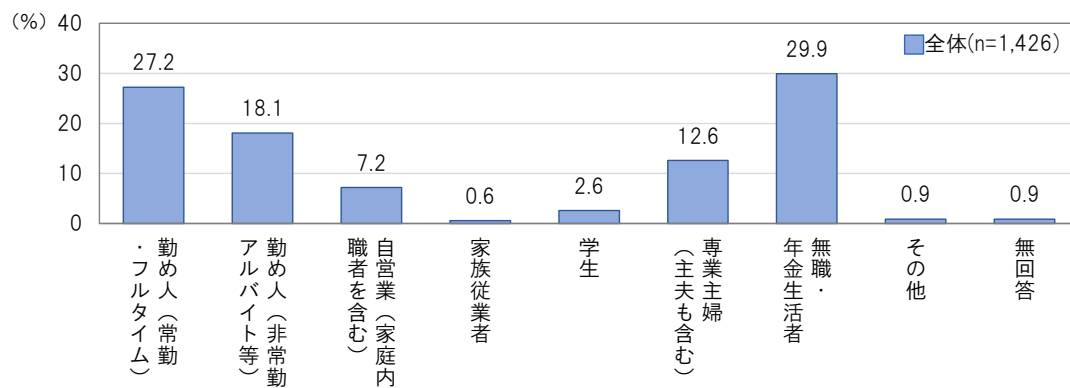
(5) 住居の種類

- ・回答者の住居の種類は、「持ち家（一戸建て）」が81.6%と8割以上を占めている。



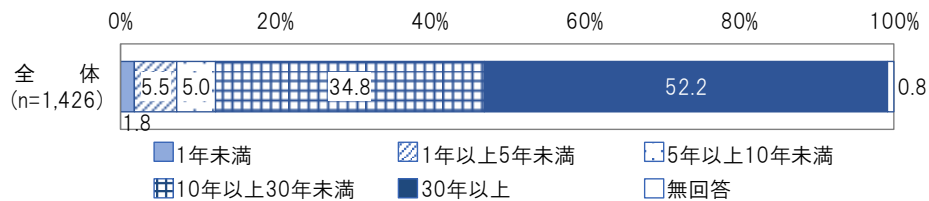
(6) 職業

- ・回答者の職業は、「無職・年金生活者」が29.9%と約3割を占めて最も多く、次いで「勤め人（常勤・フルタイム）」（27.2%）、「勤め人（非常勤・アルバイト等）」（18.1%）の順となっている。



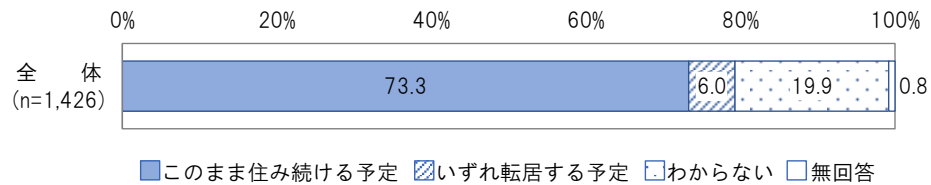
(7) 羽曳野市での居住年数

- ・回答者の羽曳野市での居住年数は、「30年以上」が52.2%と半数を超えて最も多く、次いで「10年以上30年未満」（34.8%）となっており、『10年以上』が9割近くを占めている。



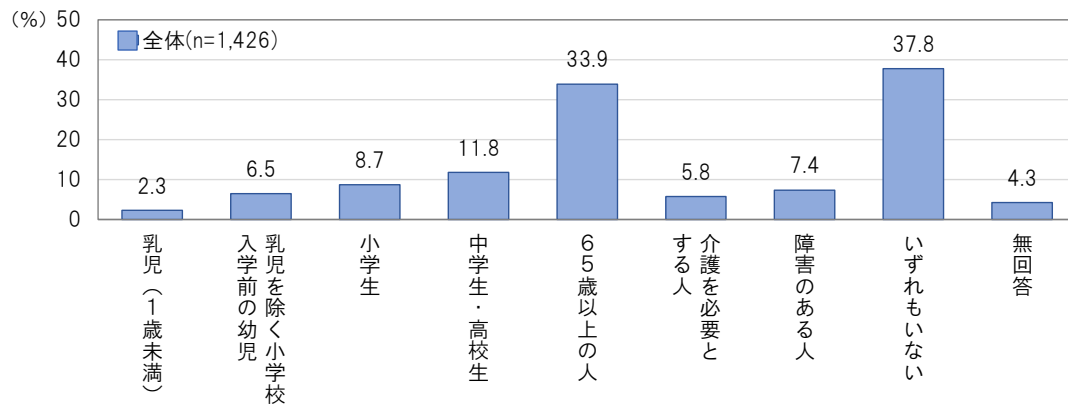
(8) 羽曳野市での今後の居住意向

- 回答者の羽曳野市での今後の居住意向は、「このまま住み続ける予定」が7割以上を占めている。



(9) 同居家族の中にいる人

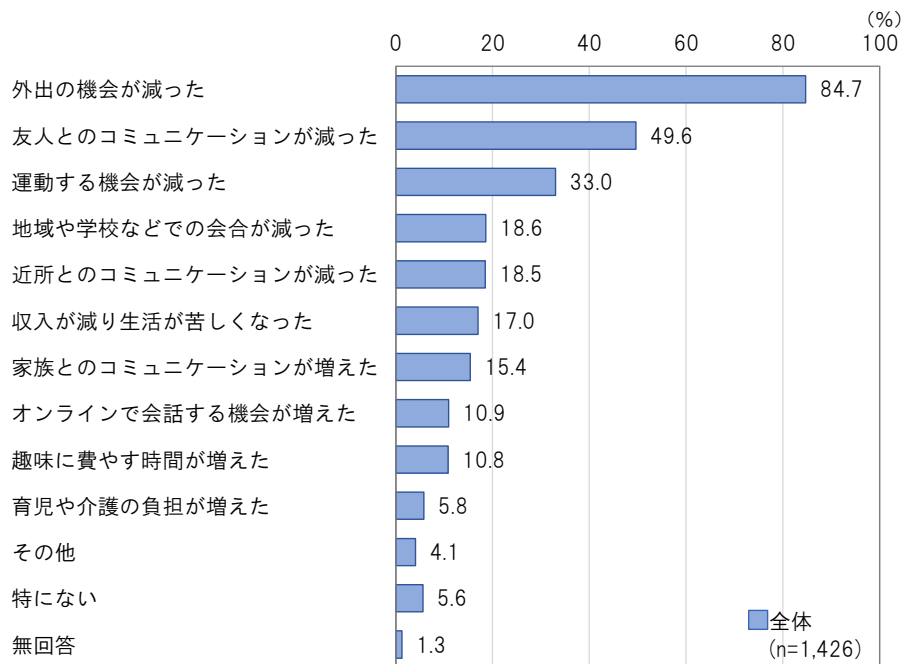
- 回答者の同居家族の中にいる人では、「いずれもない」が37.8%と4割近くを占めて最も多くなっているものの、「65歳以上の人」が33.9%と3割を超えて多く、次いで「中学生・高校生」(11.8%)、「小学生」(8.7%)、「障害のある人」(7.4%)の順となっている。



2. 最近の生活状況について

(1) 新型コロナウイルス感染拡大による生活への変化

- ・新型コロナウイルス感染拡大による生活への変化では、「外出の機会が減った」が84.7%と8割以上を占めて最も多く、次いで「友人とのコミュニケーションが減った」(49.6%)、「運動する機会が減った」(33.0%)の順となっている。
- ・年代別にみると、年代が下がるにつれて「オンラインで会話する機会が増えた」の割合が増える傾向がみられる。また、30～39歳では「育児や介護の負担が増えた」、70歳以上では「運動する機会が減った」や「近所とのコミュニケーションが減った」が、その他の年代に比べて多くなっている。



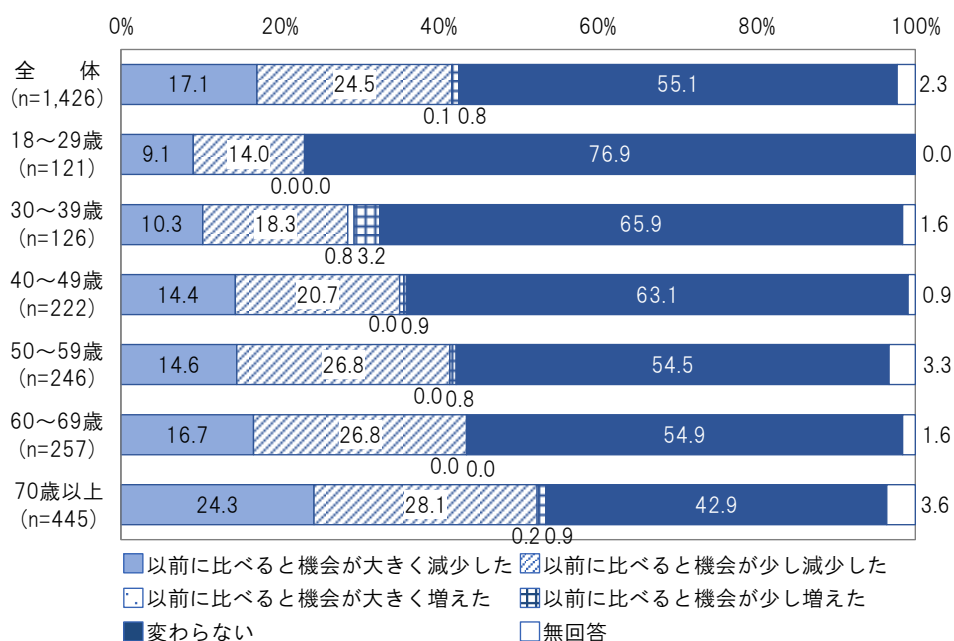
		(%)												
	回答者数 (人)	外出の機会が減った	友人とのコミュニケーションが減った	運動する機会が減った	地域や学校などでの会合が減った	近所とのコミュニケーションが減った	収入が減り生活が苦しくなった	家族とのコミュニケーションが増えた	オンラインで会話する機会が増えた	趣味に費やす時間が増えた	育児や介護の負担が増えた	その他	特にない	無回答
18～29歳	121	83.5	48.8	31.4	28.1	7.4	25.6	24.0	37.2	19.0	3.3	1.7	5.0	-
30～39歳	126	84.1	47.6	31.7	21.4	8.7	23.0	23.0	15.9	11.9	22.2	4.0	4.8	-
40～49歳	222	83.8	44.6	27.0	29.3	13.5	18.9	25.7	11.7	10.4	9.5	4.1	5.9	0.5
50～59歳	246	84.6	52.4	28.5	13.0	19.1	23.6	13.0	9.8	9.8	4.1	4.9	4.5	0.8
60～69歳	257	86.8	50.2	30.7	17.9	16.3	17.1	13.6	8.9	10.9	4.3	4.3	4.3	1.2
70歳以上	445	84.7	50.8	40.2	13.3	27.2	8.5	8.3	4.0	9.0	2.0	3.8	7.2	2.7

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

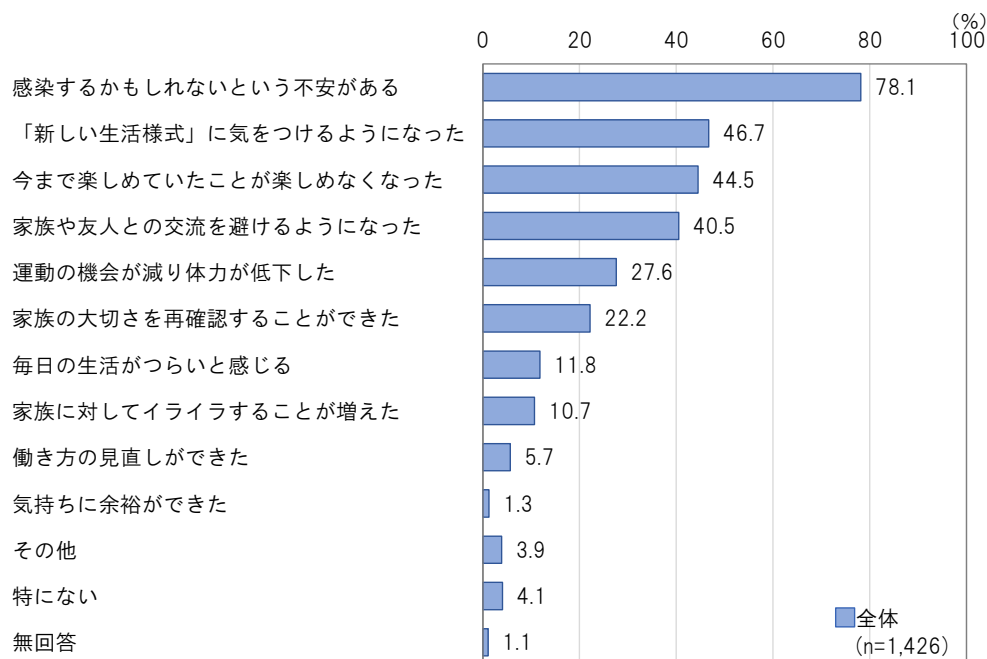
(2) 新型コロナウイルス感染拡大による地域組織に関わる機会の変化

- 新型コロナウイルス感染拡大による地域組織に関わる機会の変化では、「変わらない」が55.1%と半数以上を占めて最も多くなっているものの、次いで「以前に比べると機会が少し減少した」(24.5%)となっており、「以前に比べると機会が大きく減少した」(17.1%)と合わせると、地域組織に関わる機会が減少した人が4割以上となっている。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「以前に比べると機会が大きく減少した」と「以前に比べると機会が少し減少した」を合わせた『減少した』の割合が増えており、70歳以上では半数以上を占める。



(3) 新型コロナウイルス感染拡大による気持ちや身体への変化

- ・新型コロナウイルス感染拡大による気持ちや身体への変化では、「感染するかもしれないという不安がある」が78.1%と8割近くを占めて最も多く、次いで「新しい生活様式」に気をつけるようになった(46.7%)、「今まで楽しめていたことが楽しめなくなった」(44.5%)、「家族や友人との交流を避けるようになった」(40.5%)の順となっている。
- ・年代別にみると、18～29歳では「今まで楽しめていたことが楽しめなくなった」、70歳以上では「運動の機会が減り体力が低下した」が、その他の年代に比べてやや多くなっている。



														(%)
	回答者数（人）	感染するかもしれないという不安がある	「新しい生活様式」に気をつけるようになった	今まで楽しめていたことが楽しめなくなった	家族や友人との交流を避けるようになった	運動の機会が減り体力が低下した	家族の大切さを再確認することができた	毎日の生活がつらいと感じる	家族に対してイライラすることが増えた	働き方の見直しができた	気持ちに余裕ができた	その他	特になし	無回答
18～29歳	121	75.2	47.9	54.5	40.5	24.8	27.3	19.0	10.7	8.3	2.5	2.5	5.0	-
30～39歳	126	71.4	50.8	44.4	38.9	25.4	23.8	15.9	18.3	8.7	2.4	3.2	4.8	-
40～49歳	222	79.3	58.1	42.3	45.5	25.7	24.3	9.9	9.9	10.4	0.9	3.6	1.8	0.5
50～59歳	246	77.6	53.7	43.5	40.7	19.1	20.3	11.4	13.4	7.3	1.2	5.7	2.8	1.2
60～69歳	257	82.1	51.8	43.2	41.2	24.9	18.7	7.8	10.5	4.7	1.2	4.7	2.7	1.2
70歳以上	445	78.2	33.0	44.0	37.8	36.6	22.5	11.9	7.4	1.6	1.1	2.9	6.3	1.8

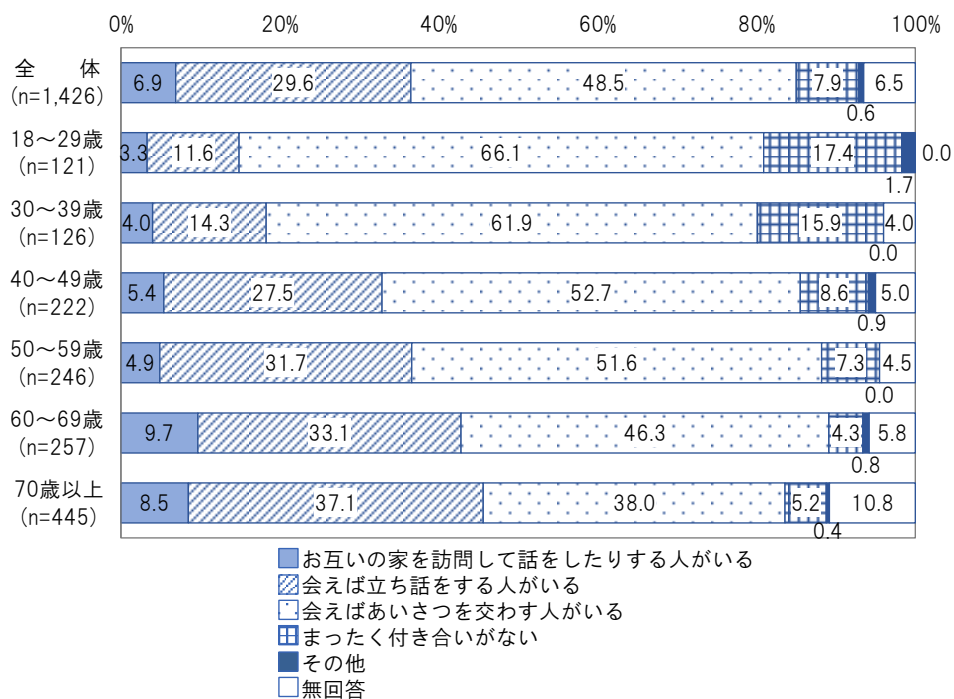
※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

3. 近所とのつきあいや地域活動などについて

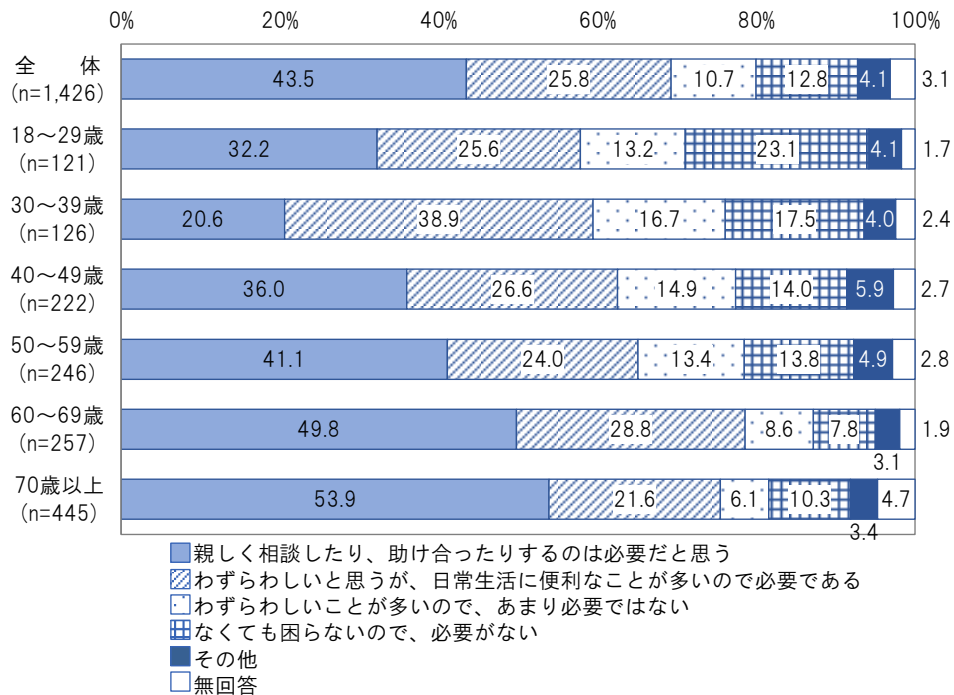
(1) 近所との関係

- 近所との関係では、「会えばあいさつを交わす人がいる」が48.5%と半数近くを占めて最も多く、次いで「会えば立ち話をする人がいる」(29.6%)となっており、「お互いの家を訪問して話をしたりする人がいる」(6.9%)と合わせると、近所とのつきあいがある人が8割以上となっている。
- 一方で、「まったく付き合いがない」が7.9%と1割近くとなっている。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「お互いの家を訪問して話をしたりする人がいる」や「会えば立ち話をする人がいる」などのつきあいをしている人の割合が増えており、近所とのつきあいが深い傾向がみられる。
- 一方で、「まったく付き合いがない」の割合をみると、18～39歳でともに1割以上と、その他の年代に比べてやや多くなっている。



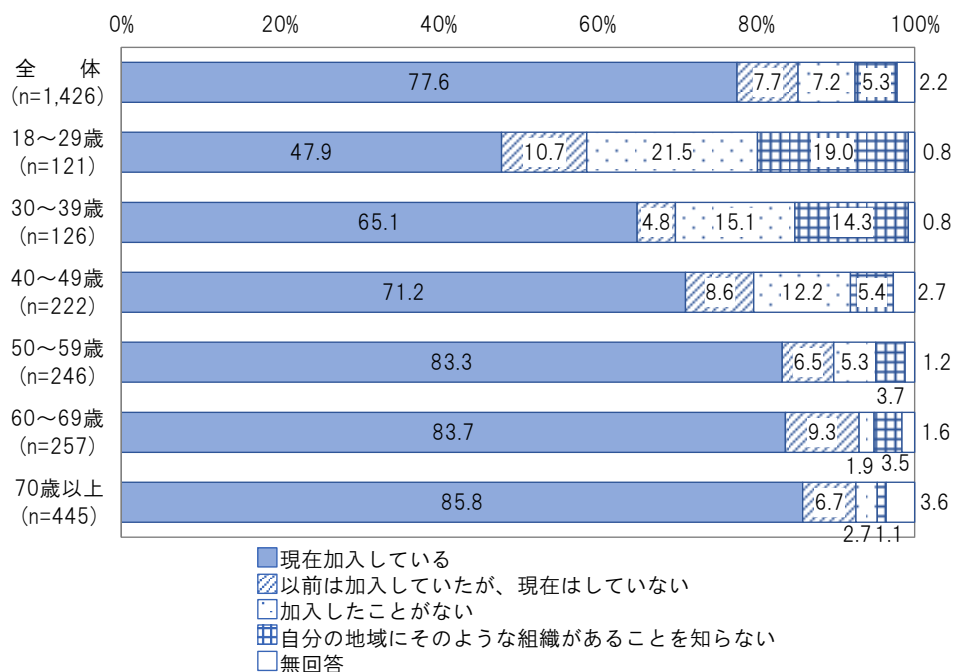
(2) 近所づきあいの考え方

- 近所づきあいの考え方では、「親しく相談したり、助け合ったりするのは必要だと思う」が43.5%と4割以上を占め、「わずらわしいと思うが、日常生活に便利なが多いので必要である」(25.8%)と合わせると、約7割の人が『必要である』となっている。
- 年代別にみると、概ね、年代が下がるにつれて「わずらわしいことが多いので、あまり必要ではない」や「なくても困らないので、必要がない」などの『必要ない』の割合が増えており、18～29歳では4割近くを占める。



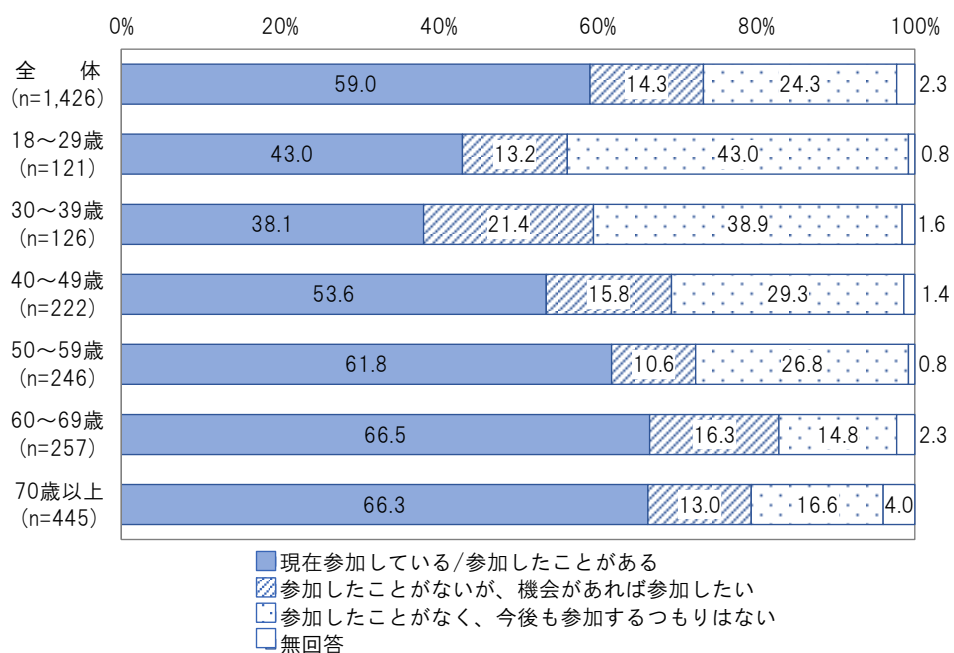
(3) 町内会や自治会への加入状況

- ・町内会や自治会への加入状況では、「現在加入している」が 77.6%と、8割近くを占めている。
- ・年代別にみると、年代が下がるにつれて加入率が低く、「加入したことがない」と「自分の地域にそのような組織があることを知らない」を合わせると、18～29 歳で約4割、30～39 歳で約3割を占める。



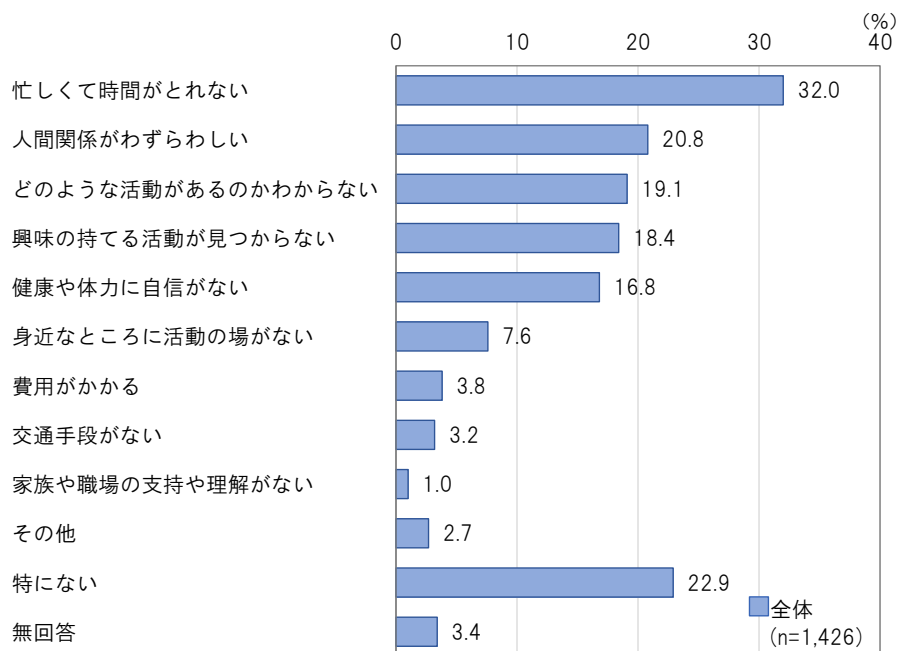
(4) 町内会行事などの地域活動への参加状況

- ・町内会行事などの地域活動への参加状況では、「現在参加している/参加したことがある」が 59.0%と約6割を占めている。
- ・年代別にみると、概ね、年代が下がるにつれて参加率が低くなっているものの、30～39 歳では「参加したことがないが、機会があれば参加したい」が 21.4%と、その他の年代に比べてやや多くなっており、潜在的な参加意向者は多いことがわかる。



(5) 地域活動に参加するうえで支障になること

- ・地域活動に参加するうえで支障になることでは、「忙しくて時間がとれない」が32.0%と3割以上を占めて最も多く、次いで「人間関係がわずらわしい」(20.8%)、「どのような活動があるのかわからない」(19.1%)、「興味の持てる活動が見つからない」(18.4%)、「健康や体力に自信がない」(16.8%)の順となっている。
- ・年代別にみると、70歳以上では「健康や体力に自信がない」が最も多くなっている。また、18～29歳では「どのような活動があるのかわからない」、30～39歳では「人間関係がわずらわしい」が、その他の年代に比べてやや多くなっている。



		(%)											
	回答者数(人)	忙しくて時間がとれない	人間関係がわずらわしい	どのような活動があるのかわからない	興味の持てる活動が見つからない	健康や体力に自信がない	身近なところに活動の場がない	費用がかかる	交通手段がない	家族や職場の支持や理解がない	その他	特になし	無回答
18～29歳	121	43.0	22.3	32.2	18.2	3.3	8.3	4.1	1.7	—	3.3	19.0	0.8
30～39歳	126	51.6	34.1	26.2	17.5	4.8	3.2	7.1	0.8	0.8	1.6	16.7	0.8
40～49歳	222	47.7	24.8	19.8	20.7	8.1	5.0	4.5	3.2	1.8	1.4	21.2	2.7
50～59歳	246	50.8	24.8	20.7	18.3	8.1	6.9	3.7	1.2	2.0	4.9	19.1	2.0
60～69歳	257	24.9	23.0	16.3	19.5	16.0	8.2	4.3	2.3	1.2	2.3	27.6	1.6
70歳以上	445	10.1	11.0	14.2	17.1	33.3	9.7	2.0	5.6	0.2	2.7	25.4	7.0

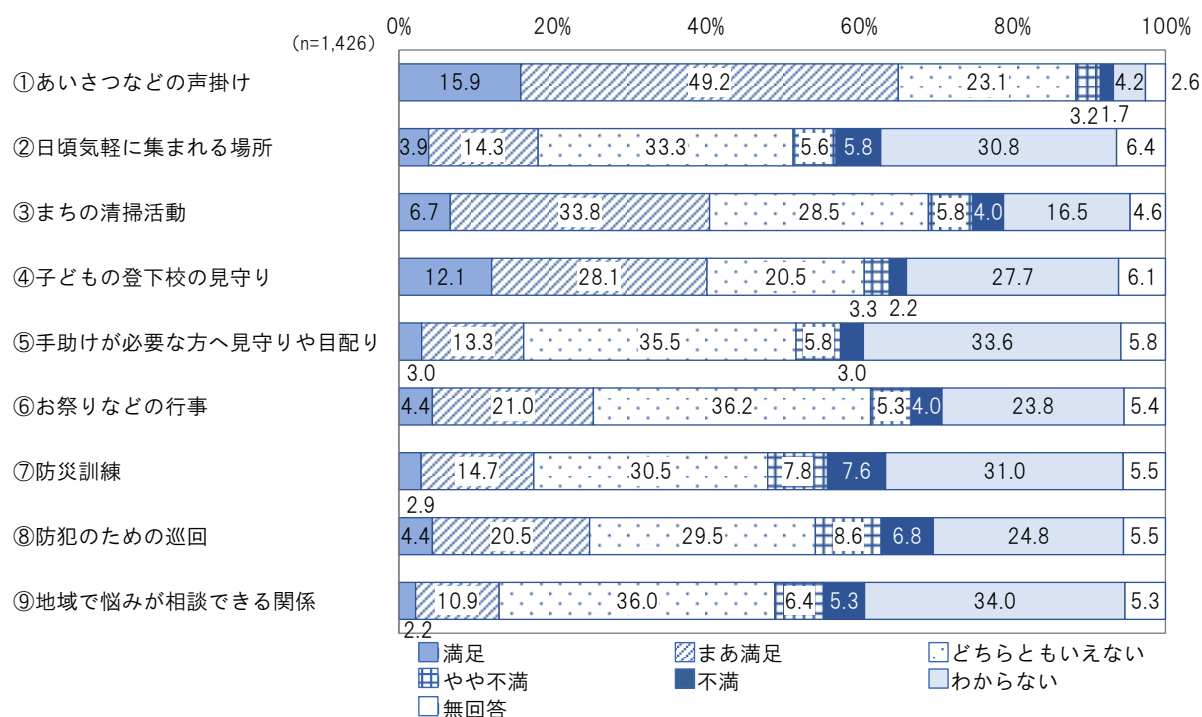
※1番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(6) 居住地域での地域の関わりの満足度・重要度

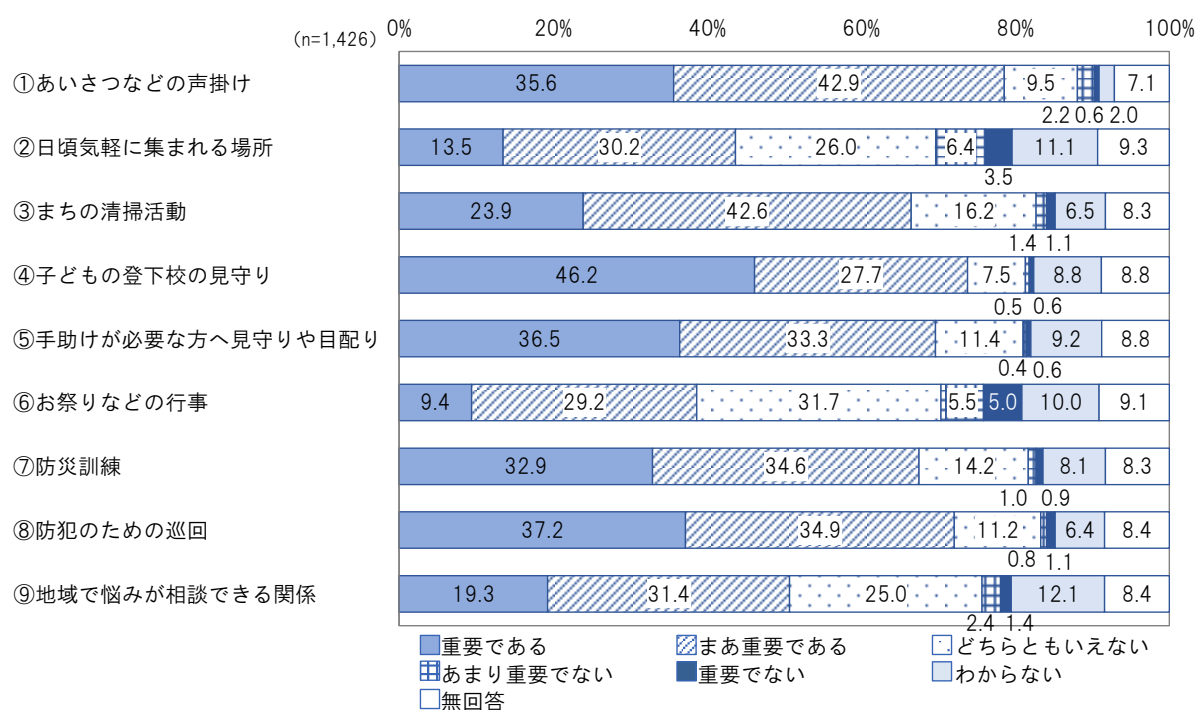
①満足度

- ・居住地域での取り組みの満足度では、「満足」と「まあ満足」を合わせた『満足』の割合をみると、“①あいさつなどの声掛け”で65.1%と6割以上を占めて最も多く、次いで“③まちの清掃活動”(40.5%)、“④子どもの登下校の見守り”(40.2%)の順となっている。
- ・すべての項目で『満足』が『不満』(「やや不満」+「不満」)を上回っているものの、“⑦防災訓練”や“⑧防犯のための巡回”では、『不満』が15%程度となっており、その他の項目に比べてやや多くなっている。



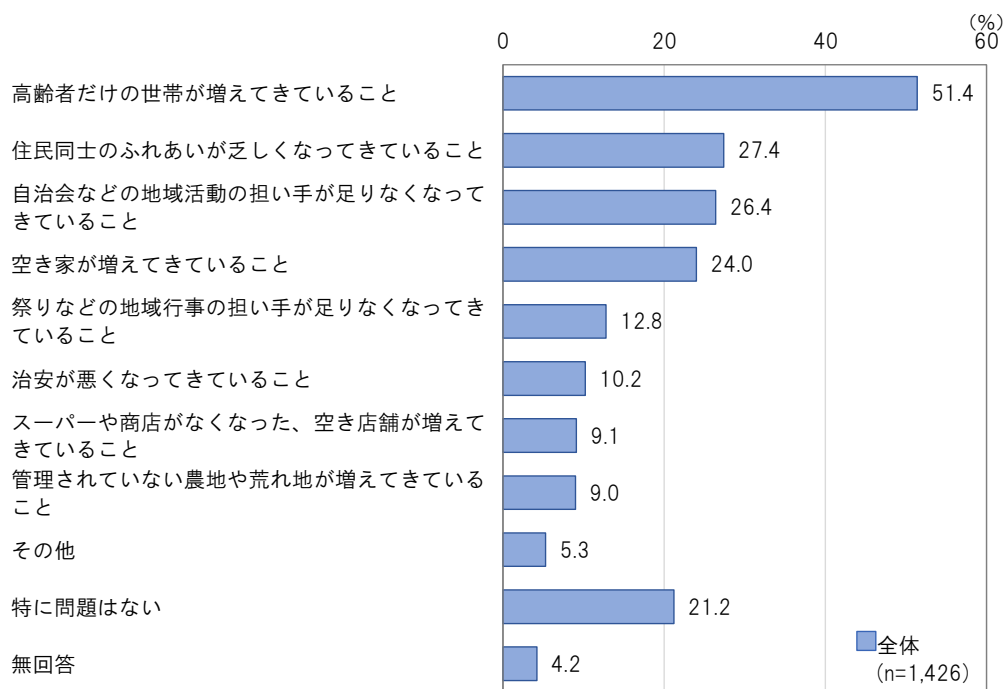
②重要度

- 居住地域での取り組みの重要度では、「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“①あいさつなどの声掛け”で78.5%と8割近くを占めて最も多く、次いで“④子どもの登下校の見守り”（73.9%）、“⑧防犯のための巡回”（72.1%）、“⑤手助けが必要な方へ見守りや目配り”（69.8%）の順となっている。
- すべての項目で『重要』が『重要でない』（「あまり重要でない」+「重要でない」）を上回っているものの、“②日頃気軽に集まれる場所”や“⑥お祭りなどの行事”では、『重要でない』が約1割となっており、その他の項目に比べてやや多くなっている。



(8) 地域で不安に感じていること

- ・地域で不安に感じていることでは、「高齢者だけの世帯が増えてきていること」51.4%と半数以上を占めて最も多く、次いで「住民同士のふれあいが乏しくなってきていること」(27.4%)、「自治会などの地域活動の担い手が足りなくなっていること」(26.4%)、「空き家が増えてきていること」(24.0%)の順となっている。
- ・年代別にみると、概ね、年代が上がるにつれて「住民同士のふれあいが乏しくなってきていること」や「空き家が増えてきていること」などの割合が多くなる傾向がみられる。



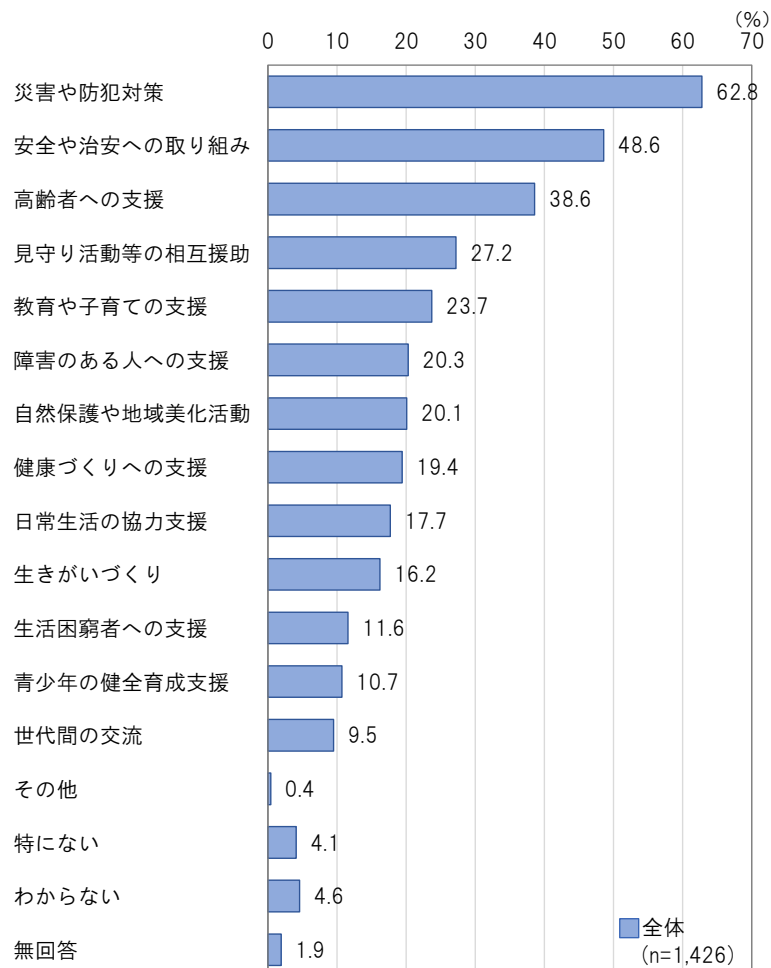
												(%)
	回答者数（人）	高齢者だけの世帯が増えてきていること	住民同士のふれあいが乏しくなっていること	自治会などの地域活動の担い手が足りなくなっていること	空き家が増えてきていること	祭りなどの地域行事の担い手が足りなくなっていること	治安が悪くなっていること	スーパーや商店がなくなった、空き店舗が増えてきていること	管理されていない農地や荒地地が増えてきていること	その他	特に問題はない	無回答
18～29歳	121	34.7	16.5	9.9	9.9	7.4	14.9	11.6	9.1	6.6	37.2	3.3
30～39歳	126	36.5	10.3	13.5	15.9	6.3	13.5	11.1	9.5	10.3	28.6	4.8
40～49歳	222	37.4	20.3	22.1	19.4	14.0	10.4	8.1	10.4	6.8	27.5	4.1
50～59歳	246	48.4	22.8	27.2	22.0	15.0	11.4	8.5	9.3	6.5	22.4	3.7
60～69歳	257	58.8	30.4	37.4	25.3	14.8	10.5	6.6	7.8	3.9	15.2	3.1
70歳以上	445	64.5	39.3	29.9	32.6	12.8	7.2	9.9	8.5	2.9	15.1	5.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(9) 地域としての役割や地域の人々が協力して取り組むために必要だと思うこと

- ・地域としての役割や地域の人々が協力して取り組むために必要だと思うことでは、「災害や防犯対策」が62.8%と6割以上を占めて最も多く、次いで「安全や治安への取り組み」(48.6%)、「高齢者への支援」(38.6%)の順となっている。



- 年代別にみると、概ね、年代が上がるにつれて「高齢者への支援」や「健康づくりへの支援」、「生きがいづくり」などの割合が多くなる傾向がみられる。
- 30～39歳では「教育や子育ての支援」や「青少年の健全育成支援」などで、その他の年代に比べてやや多くなっている。

(%)

	回答者数（人）	災害や防犯対策	安全や治安への取り組み	高齢者への支援	見守り活動等の相互援助	教育や子育ての支援	障害のある人への支援	自然保護や地域美化活動	健康づくりへの支援	日常生活の協力支援
18～29歳	121	55.4	46.3	25.6	21.5	35.5	28.1	20.7	13.2	17.4
30～39歳	126	64.3	54.0	34.9	32.5	57.9	19.8	22.2	7.1	12.7
40～49歳	222	59.5	55.9	33.3	34.7	35.1	22.1	23.4	12.2	13.1
50～59歳	246	67.1	50.8	37.0	29.3	20.7	15.0	21.5	16.7	17.5
60～69歳	257	68.5	58.4	39.7	31.5	19.5	18.7	21.4	21.4	18.7
70歳以上	445	60.4	37.3	46.5	20.0	9.4	20.7	16.0	28.3	20.7

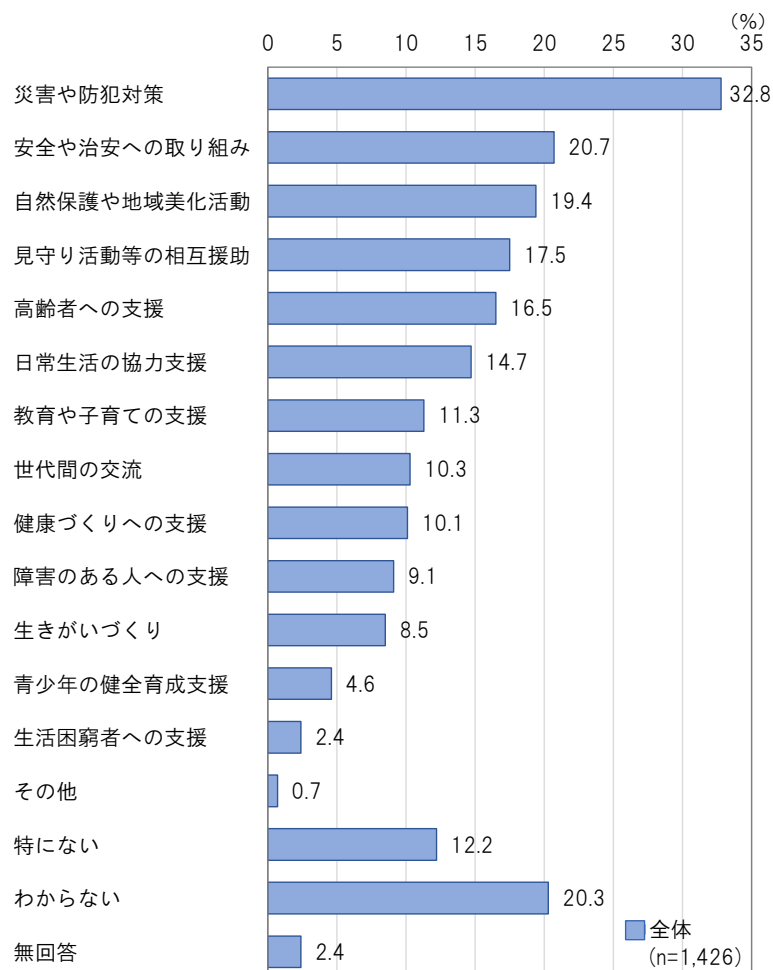
(つづき)	回答者数（人）	生きがいづくり	生活困窮者への支援	青少年の健全育成支援	世代間の交流	その他	特にない	わからない	無回答
18～29歳	121	15.7	12.4	5.8	6.6	-	3.3	9.9	2.5
30～39歳	126	7.1	11.1	17.5	9.5	-	6.3	4.0	0.8
40～49歳	222	11.3	13.1	6.8	5.9	-	1.4	5.9	0.9
50～59歳	246	14.2	11.4	14.6	11.4	0.8	2.4	4.9	2.0
60～69歳	257	18.7	11.3	11.7	9.7	-	2.7	3.9	0.8
70歳以上	445	20.9	11.0	9.4	10.8	0.7	7.0	2.9	2.9

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(10) 地域の取り組みについて、参加や手助けができること

- ・地域の取り組みについて、参加や手助けができることでは、「災害や防犯対策」が32.8%と3割以上を占めて最も多く、次いで「安全や治安への取り組み」(20.7%)、「自然保護や地域美化活動」(19.4%)、「見守り活動等の相互援助」(17.5%)の順となっている。
- ・(9)の地域の人々が協力して取り組むために必要だと思うことと比べると、災害や安全・治安への取り組みや、高齢者への支援、見守り活動等の相互援助などでともに割合が多くなっている。



- 年代別にみると、概ね、年代が上がるにつれて「高齢者への支援」や「健康づくりへの支援」、「生きがいづくり」などの割合が多くなる傾向がみられる。
- 30～39歳では「教育や子育ての支援」、60～69歳では「日常生活の協力支援」で、その他の年代に比べてやや多くなっている。

(%)

	回答者数（人）	災害や防犯対策	安全や治安への取り組み	自然保護や地域美化活動	見守り活動等の相互援助	高齢者への支援	日常生活の協力支援	教育や子育ての支援	世代間の交流	健康づくりへの支援
18～29歳	121	27.3	16.5	23.1	5.0	11.6	7.4	12.4	11.6	9.1
30～39歳	126	34.1	19.0	19.0	21.4	8.7	6.3	27.0	7.1	4.0
40～49歳	222	33.3	23.9	16.2	17.6	15.8	10.4	18.9	9.5	5.4
50～59歳	246	34.6	19.5	18.7	16.7	12.2	14.6	9.3	8.5	6.9
60～69歳	257	39.7	24.9	23.0	22.6	19.8	21.0	11.7	7.0	10.5
70歳以上	445	29.0	19.1	18.4	17.1	21.1	16.9	3.6	14.2	16.0

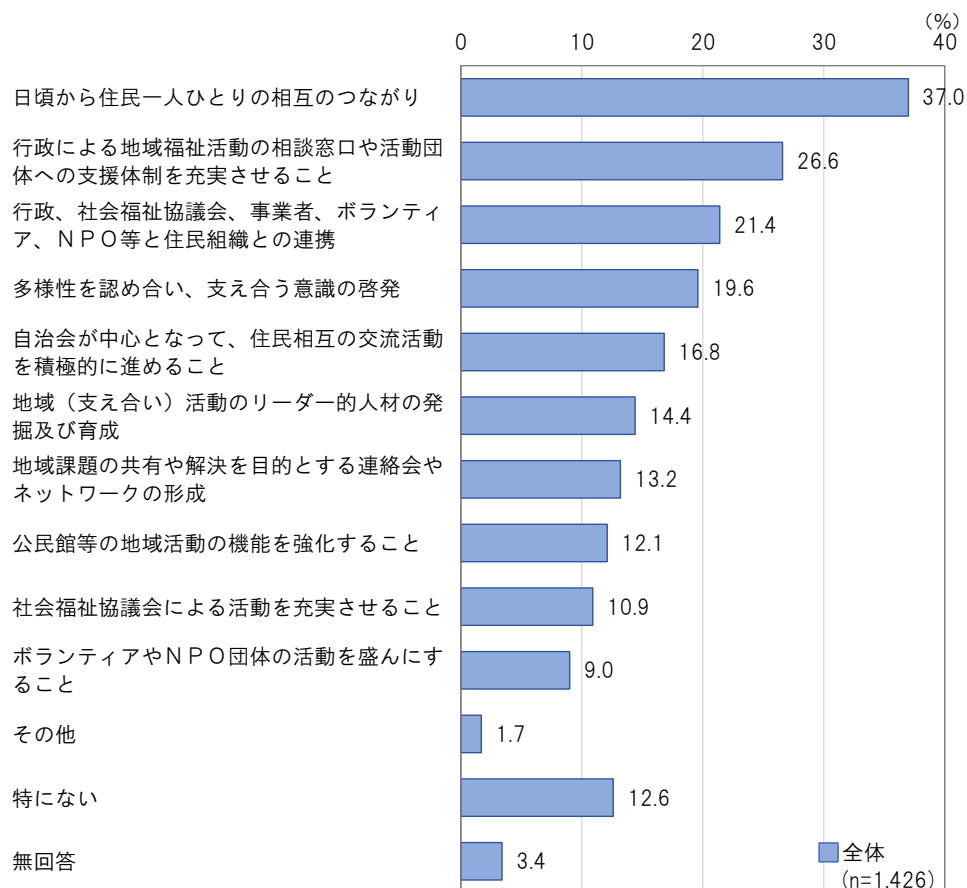
(つづき)	回答者数（人）	障害のある人への支援	生きがいづくり	青少年の健全育成支援	生活困窮者への支援	その他	特にない	わからない	無回答
18～29歳	121	14.0	5.8	1.7	4.1	-	10.7	27.3	2.5
30～39歳	126	10.3	1.6	4.0	-	-	13.5	29.4	0.8
40～49歳	222	7.7	3.6	5.4	0.9	-	9.0	24.8	0.9
50～59歳	246	7.3	4.5	5.3	1.6	0.4	11.0	23.2	1.6
60～69歳	257	10.1	8.9	4.7	2.3	0.8	9.3	20.6	0.4
70歳以上	445	8.5	15.1	4.5	3.8	1.6	16.4	12.4	4.5

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(11) 地域での支え合い活動を進めていくために必要だと思う取り組み

- ・地域での支え合い活動を進めていくために必要だと思う取り組みでは、「日頃から住民一人ひとりの相互のつながり」が 37.0%と4割近くを占めて最も多く、次いで「行政による地域福祉活動の相談窓口や活動団体への支援体制を充実させること」(26.6%)、「行政、社会福祉協議会、事業者、ボランティア、NPO等と住民組織との連携」(21.4%)、「多様性を認め合い、支え合う意識の啓発」(19.6%)の順となっている。



- 年代別にみると、50～59歳では「行政による地域福祉活動の相談窓口や活動団体への支援体制を充実させること」が最も多く、その他の年代では「日頃から住民一人ひとりの相互のつながり」が最も多くなっている。
- 概ね、年代が上がるにつれて「自治会が中心となって、住民相互の交流活動を積極的に進めること」や「地域（支え合い）活動のリーダー的人材の発掘及び育成」の割合が多くなる傾向がみられる。
- 18～29歳では「多様性を認め合い、支え合う意識の啓発」や「ボランティアやNPO団体の活動を盛んにすること」で、その他の年代に比べてやや多くなっている。

(%)

	回答者数（人）	日頃から住民一人ひとりの相互のつながり	行政による地域福祉活動の相談窓口や活動団体への支援体制を充実させること	行政、社会福祉協議会、事業者、ボランティア、NPO等と住民組織との連携	多様性を認め合い、支え合う意識の啓発	自治会が中心となって、住民相互の交流活動を積極的に進めること	地域（支え合い）活動のリーダー的人材の発掘及び育成	地域課題の共有や解決を目的とする連絡会やネットワークの形成
18～29歳	121	29.8	24.8	15.7	26.4	9.1	5.0	13.2
30～39歳	126	28.6	27.0	22.2	22.2	7.9	9.5	12.7
40～49歳	222	37.8	26.6	23.4	22.5	9.5	11.7	15.3
50～59歳	246	32.5	35.0	26.8	17.5	13.0	11.4	16.7
60～69歳	257	40.1	30.4	27.2	20.6	18.3	16.7	14.8
70歳以上	445	41.3	20.9	15.5	16.6	26.1	20.0	9.4

(つづき)	回答者数（人）	公民館等の地域活動の機能を強化すること	社会福祉協議会による活動を充実させること	ボランティアやNPO団体の活動を盛んにすること	その他	特にない	無回答
18～29歳	121	11.6	7.4	14.9	1.7	16.5	2.5
30～39歳	126	16.7	10.3	7.9	2.4	16.7	1.6
40～49歳	222	12.2	11.3	8.6	1.4	9.5	2.7
50～59歳	246	11.0	13.0	8.1	2.4	11.4	2.8
60～69歳	257	10.9	11.3	9.7	1.9	10.5	1.2
70歳以上	445	12.4	10.8	8.1	0.9	14.2	5.4

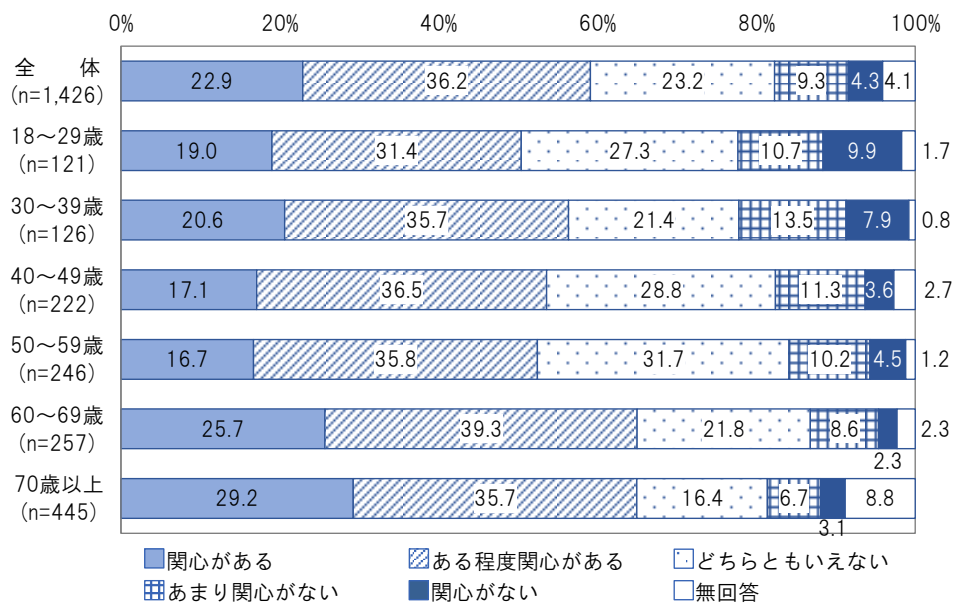
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

4. 福祉への関心について

(1)「福祉」の関心度

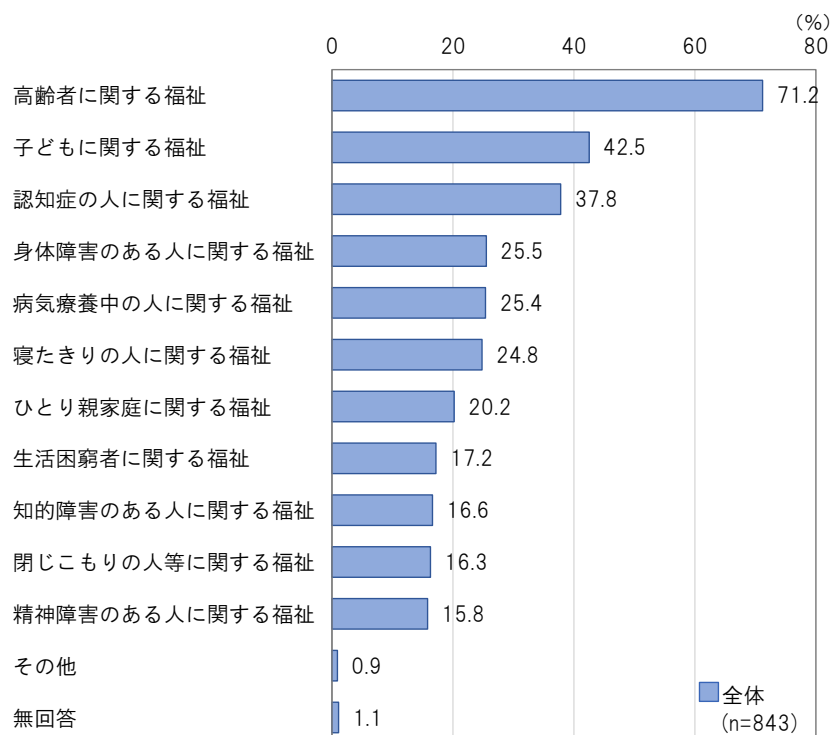
- 「福祉」の関心度では、「ある程度関心がある」が36.2%と4割近くを占めて最も多く、「関心がある」(22.9%)と合わせると、約6割の人が関心を持っていることがわかる。
- 一方で、「あまり関心がない」と「関心がない」を合わせた『関心がない』人が1割以上となっている。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれて関心がない人の割合が多くなっており、18～39歳では2割以上と、その他の年代に比べてやや多くなっている。



(2) 関心のある福祉の分野

※(1)で「関心がある」または「ある程度関心がある」と回答した人のみ

- 福祉に関心がある人の関心のある分野については、「高齢者に関する福祉」が71.2%と7割以上を占めて最も多く、次いで「子どもに関する福祉」(42.5%)、「認知症の人に関する福祉」(37.8%)の順となっている。
- 年代別にみると、18～39歳では「子どもに関する福祉」が7割以上を占めて最も高く、その他の年代と比べても高くなっている。また、年代が上がるにつれて「高齢者に関する福祉」や「認知症の人に関する福祉」の割合が多くなる傾向がみられる。



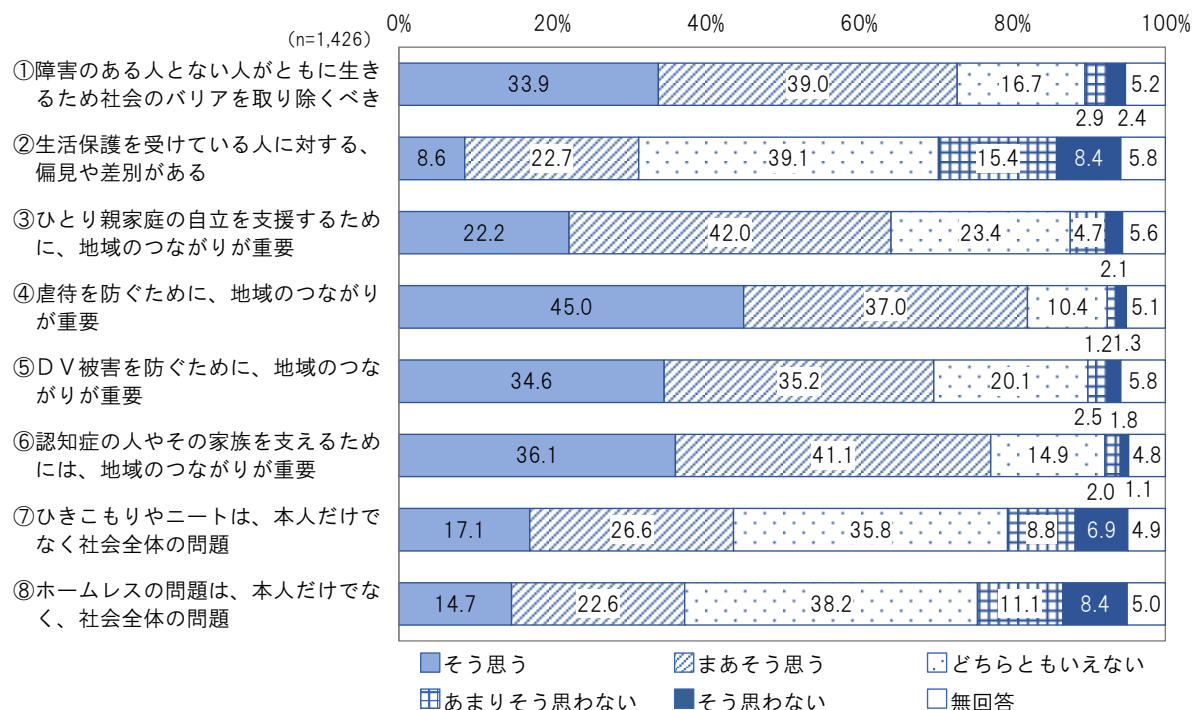
	回答者数 (人)	高齢者に関する福祉	子どもに関する福祉	認知症の人に関する福祉	身体障害のある人に関する福祉	病気療養中の人に関する福祉	寝たきりの人に関する福祉	ひとり親家庭に関する福祉	生活困窮者に関する福祉	知的障害のある人に関する福祉	閉じこもりの人等に関する福祉	精神障害のある人に関する福祉	その他	無回答
18～29歳	61	36.1	75.4	29.5	37.7	29.5	23.0	29.5	23.0	27.9	21.3	34.4	1.6	-
30～39歳	71	53.5	71.8	25.4	21.1	21.1	9.9	26.8	14.1	18.3	12.7	21.1	1.4	1.4
40～49歳	119	66.4	59.7	32.8	26.1	26.1	23.5	20.2	13.4	16.8	16.8	16.8	-	0.8
50～59歳	129	76.0	41.1	38.8	20.9	26.4	21.7	17.8	17.1	14.0	17.8	10.1	-	0.8
60～69歳	167	76.0	35.9	38.9	18.6	18.0	22.2	16.2	19.8	17.4	14.4	16.8	1.2	1.2
70歳以上	289	79.9	26.3	43.9	30.4	29.8	32.9	20.1	17.0	14.5	16.6	12.5	1.0	1.0

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(4) 福祉に関する考え方

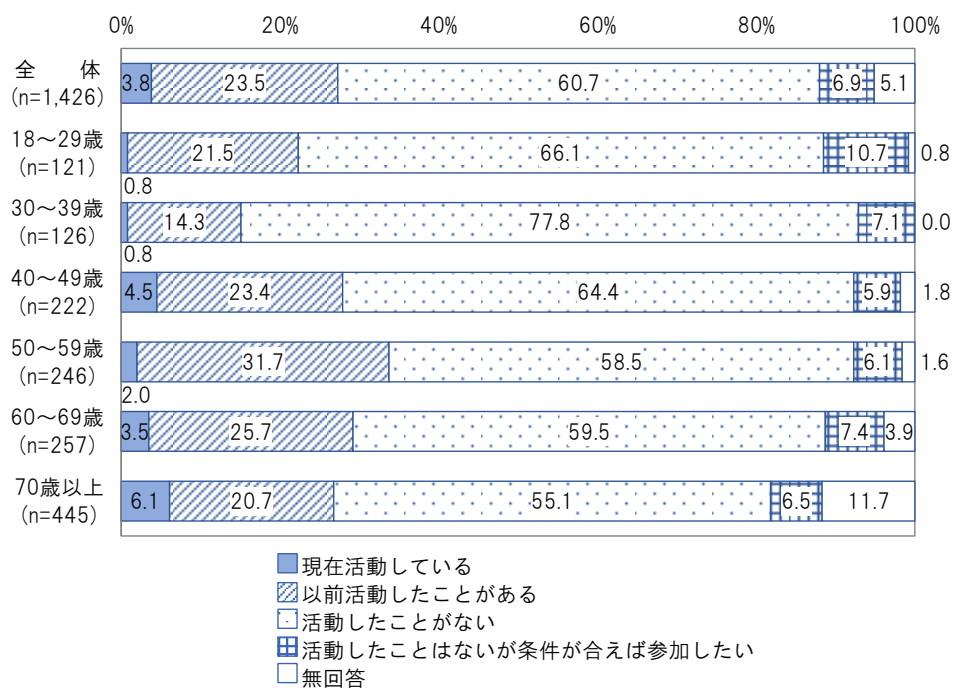
- 福祉に関する考え方では、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“④虐待を防ぐために、地域のつながりが重要”で82.0%と8割以上を占めて最も多く、次いで“⑥認知症の人やその家族を支えるためには、地域のつながりが重要”が77.2%となっている。
- “⑦ひきこもりやニートは、本人だけでなく社会全体の問題”や“⑧ホームレスの問題は、本人だけでなく、社会全体の問題”では、『そう思う』が半数未満と少なくなっている。
- また、“②生活保護を受けている人に対する偏見や差別がある”では、『そう思う』が3割以上を占めている。



5. ボランティア活動について

(1) 地域活動やボランティア活動への参加状況

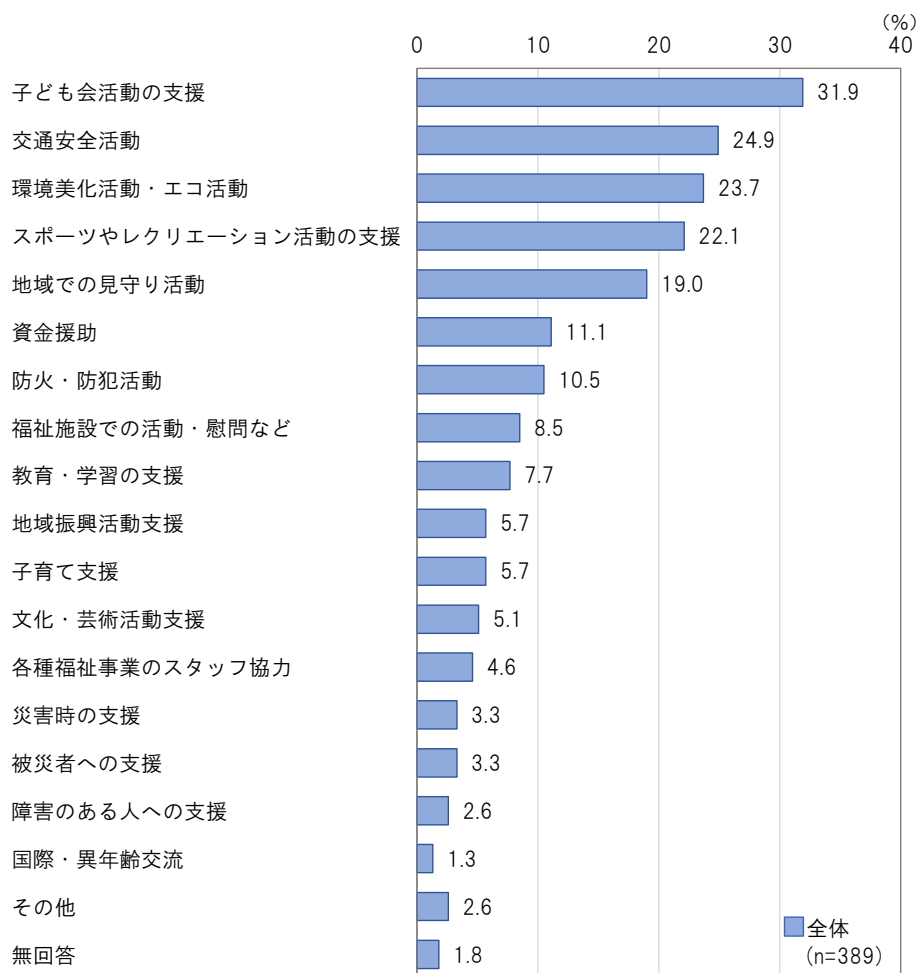
- ・地域活動やボランティア活動への参加状況では、「活動したことがない」が60.7%と約6割を占めて最も多く、「現在活動している」(3.8%)と「以前活動したことがある」(23.5%)を合わせると、参加したことがある人は3割未満となっている。
- ・年代別にみると、30～39歳で「現在活動している」と「以前活動したことがある」を合わせた『参加したことがある』人が2割未満と、その他の年代に比べてやや少なくなっている。



(2) 現在取り組んでいる（取り組んだことがある）ボランティア活動や助け合い活動の内容

※（１）で「現在活動している」または「以前活動したことがある」と回答した人のみ

- ・ボランティア活動や助け合い活動に取り組んでいる（取り組んだことがある）人の内容については、「子ども会活動の支援」が 31.9%と3割以上を占めて最も多く、次いで「交通安全活動」（24.9%）、「環境美化活動・エコ活動」（23.7%）、「スポーツやレクリエーション活動の支援」（22.1%）の順となっている。



- 年代別にみると、18～39 歳では「環境美化活動・エコ活動」、50～69 歳では「子ども会活動の支援」、その他の年代では「交通安全活動」が最も多くなっている。
- 年代が上がるにつれて、「地域での見守り活動」の割合が多くなる傾向がみられる。
- その他、40～49 歳では「スポーツやレクリエーション活動の支援」、18～29 歳では「教育・学習の支援」が、それぞれその他の年代に比べてやや多くなっている。

(%)

	回答者数（人）	子ども会活動の支援	交通安全活動	環境美化活動・エコ活動	スポーツやレクリエーション活動の支援	地域での見守り活動	資金援助	防火・防犯活動	福祉施設での活動・慰問など	教育・学習の支援	地域振興活動支援
18～29歳	27	18.5	-	37.0	14.8	3.7	7.4	7.4	11.1	18.5	3.7
30～39歳	19	15.8	15.8	36.8	15.8	10.5	-	5.3	-	5.3	5.3
40～49歳	62	24.2	33.9	27.4	32.3	16.1	3.2	11.3	6.5	8.1	3.2
50～59歳	83	38.6	28.9	20.5	27.7	16.9	6.0	8.4	4.8	6.0	2.4
60～69歳	75	50.7	16.0	18.7	17.3	18.7	16.0	10.7	6.7	8.0	-
70歳以上	119	26.1	30.3	21.8	17.6	26.9	18.5	13.4	13.4	6.7	11.8

(つづき)	回答者数（人）	子育て支援	文化・芸術活動支援	各種福祉事業のスタッフ協力	災害時の支援	被災者への支援	障害のある人への支援	国際・異年齢交流	その他	無回答
18～29歳	27	-	7.4	-	3.7	7.4	3.7	3.7	-	-
30～39歳	19	5.3	10.5	-	5.3	10.5	-	-	-	-
40～49歳	62	8.1	1.6	6.5	-	-	1.6	-	4.8	1.6
50～59歳	83	3.6	3.6	4.8	3.6	1.2	2.4	2.4	4.8	1.2
60～69歳	75	5.3	4.0	2.7	4.0	5.3	2.7	2.7	1.3	1.3
70歳以上	119	6.7	6.7	5.9	4.2	3.4	3.4	-	1.7	3.4

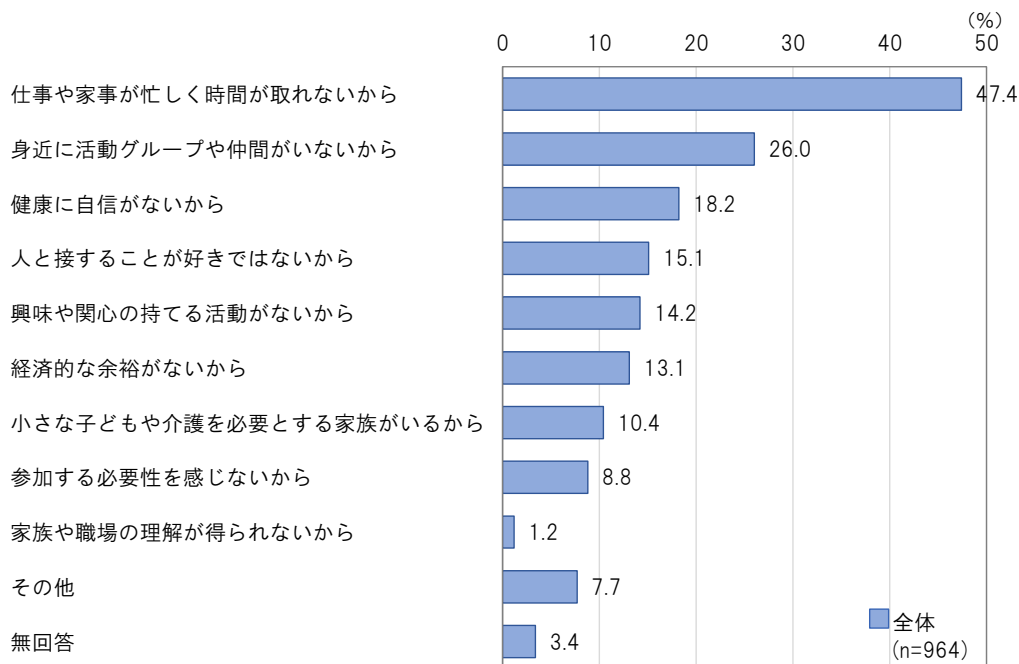
※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(3) ボランティア活動や助け合い活動に参加していない理由

※(1)で「活動したことがない」または「活動したことはないが条件が合えば参加したい」と回答した人のみ

- ボランティア活動や助け合い活動に取り組んでいない人の理由については、「仕事や家事が忙しく時間が取れないから」が47.4%と半数近くを占めて最も多く、次いで「身近に活動グループや仲間がいないから」(26.0%)、「健康に自信がないから」(18.2%)の順となっている。
- 年代別にみると、70歳以上では「健康に自信がないから」、その他の年代では「仕事や家事が忙しく時間が取れないから」が最も多くなっている。また、30～39歳では「小さな子どもや介護を必要とする家族がいるから」が3割近くを占め、その他の年代に比べてやや多くなっている。



		(%)										
	回答者数 (人)	仕事や家事が忙しく時間が取れないから	身近に活動グループや仲間がいないから	健康に自信がないから	人と接することが好きではないから	興味や関心の持てる活動がないから	経済的な余裕がないから	小さな子どもや介護を必要とする家族がいるから	参加する必要性を感じないから	家族や職場の理解が得られないから	その他	無回答
18～29歳	93	50.5	22.6	1.1	11.8	17.2	5.4	8.6	8.6	1.1	11.8	2.2
30～39歳	107	58.9	22.4	0.9	18.7	13.1	13.1	27.1	13.1	0.9	5.6	1.9
40～49歳	156	59.0	31.4	6.4	21.2	16.0	14.7	10.3	10.9	1.9	10.3	1.3
50～59歳	159	66.0	20.8	9.4	13.2	17.0	15.1	5.7	7.5	1.9	8.8	5.0
60～69歳	172	50.6	34.3	22.7	18.6	14.0	17.4	8.7	7.6	0.6	2.9	1.2
70歳以上	274	22.3	23.7	39.4	10.6	11.3	10.9	8.4	7.7	1.1	8.0	6.2

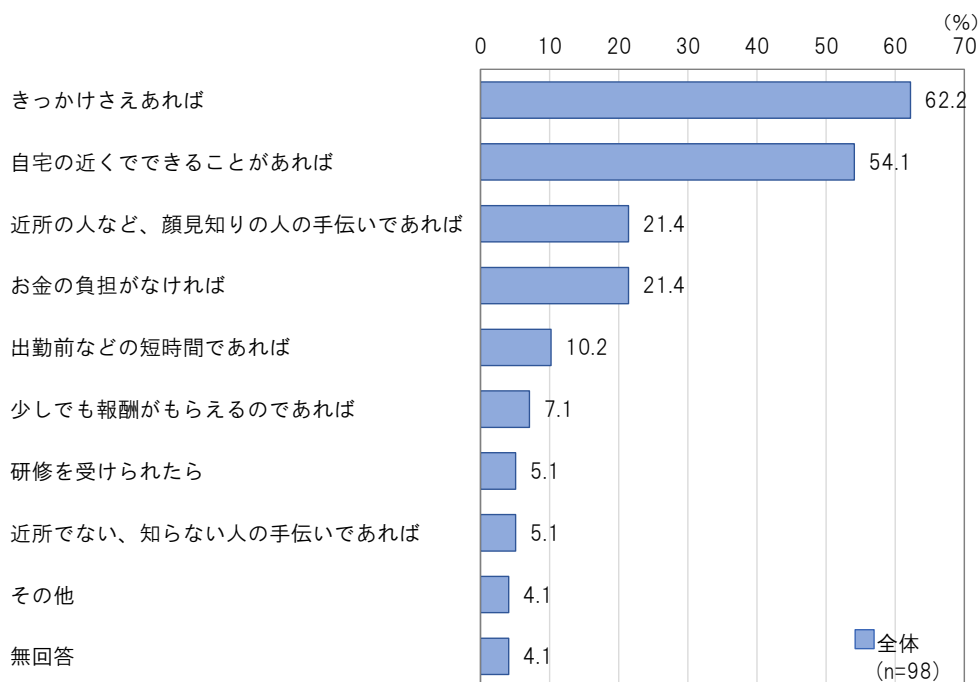
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(4) ボランティア活動に参加するための条件

※(1)で「活動したことはないが条件が合えば参加したい」と回答した人のみ

- ・ボランティア活動に参加するための条件については、「きっかけさえあれば」が62.2%と6割以上を占めて最も多く、次いで「自宅の近くでできることがあれば」(54.1%)、「近所の人など、顔見知りの人の手伝いであれば」及び「お金の負担がなければ」(21.4%)の順となっている。
- ・年代別にみると、60歳以上では「自宅の近くでできることがあれば」、その他の年代では「きっかけさえあれば」が最も多くなっている。



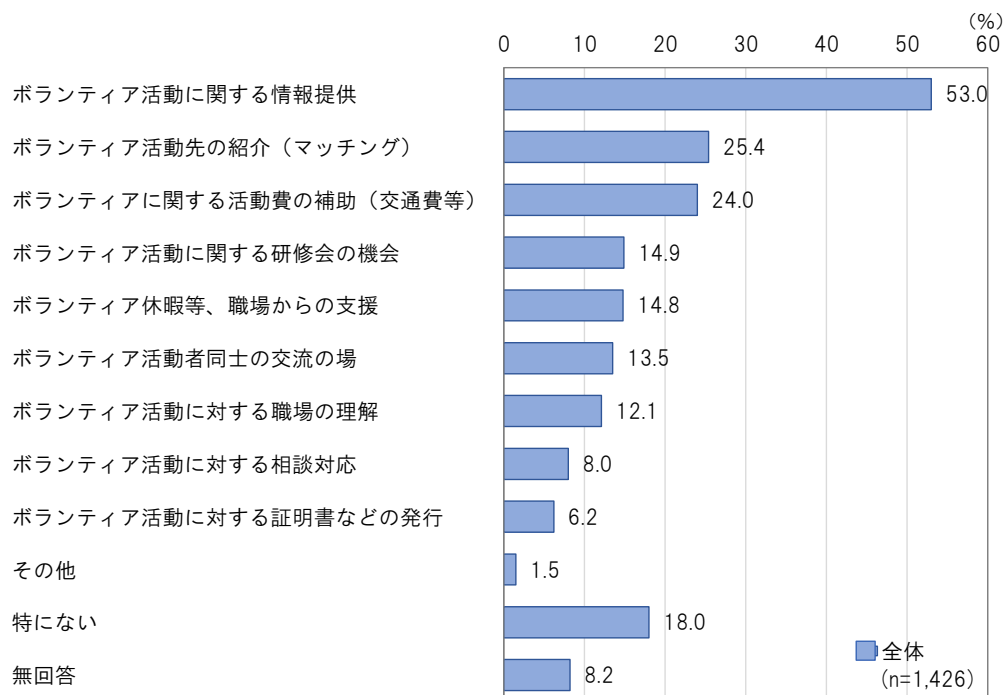
	回答者数(人)	きっかけさえあれば	自宅の近くでできることがあれば	近所の人など、顔見知りの人の手伝いであれば	お金の負担がなければ	出勤前などの短時間であれば	少しでも報酬がもらえるのであれば	研修を受けられたら	近所でない、知らない人の手伝いであれば	その他	無回答
18～29歳	13	76.9	53.8	7.7	23.1	15.4	7.7	7.7	7.7	-	-
30～39歳	9	66.7	33.3	44.4	22.2	-	-	-	11.1	-	-
40～49歳	13	76.9	46.2	-	23.1	23.1	15.4	-	-	7.7	-
50～59歳	15	66.7	53.3	26.7	33.3	6.7	13.3	6.7	-	-	-
60～69歳	19	47.4	57.9	26.3	10.5	15.8	-	10.5	5.3	5.3	-
70歳以上	29	55.2	62.1	24.1	20.7	3.4	6.9	3.4	6.9	6.9	13.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(5) ボランティア活動が行いやすくなる支援

- ・ボランティア活動が行いやすくなる支援については、「ボランティア活動に関する情報提供」が53.0%と半数以上を占めて最も多く、次いで「ボランティア活動先の紹介（マッチング）」（25.4%）、「ボランティアに関する活動費の補助（交通費等）」（24.0%）の順となっている。
- ・年代別にみると、年代が下がるにつれて「ボランティアに関する活動費の補助（交通費等）」の割合が多くなる傾向がみられる。



		(%)											
	回答者数（人）	ボランティア活動に関する情報提供	ボランティア活動先の紹介（マッチング）	ボランティアに関する活動費の補助（交通費等）	ボランティア活動に関する研修会の機会	ボランティア休暇等、職場からの支援	ボランティア活動者同士の交流の場	ボランティア活動に対する職場の理解	ボランティア活動に対する相談対応	ボランティア活動に対する証明書などの発行	その他	特になし	無回答
18～29歳	121	61.2	27.3	34.7	8.3	24.8	14.9	14.0	7.4	10.7	-	14.9	3.3
30～39歳	126	56.3	27.0	34.1	11.1	30.2	14.3	21.4	9.5	9.5	0.8	14.3	1.6
40～49歳	222	55.4	27.5	29.7	11.7	23.0	14.4	19.4	10.4	9.5	0.9	16.2	1.8
50～59歳	246	59.8	32.5	28.5	15.0	19.5	15.9	19.1	6.9	6.1	1.6	11.4	2.4
60～69歳	257	59.9	30.4	24.1	25.3	8.9	11.7	6.6	8.2	4.7	0.8	18.7	4.7
70歳以上	445	41.6	17.1	13.0	13.3	4.5	12.1	4.7	7.2	3.4	2.7	24.3	19.1

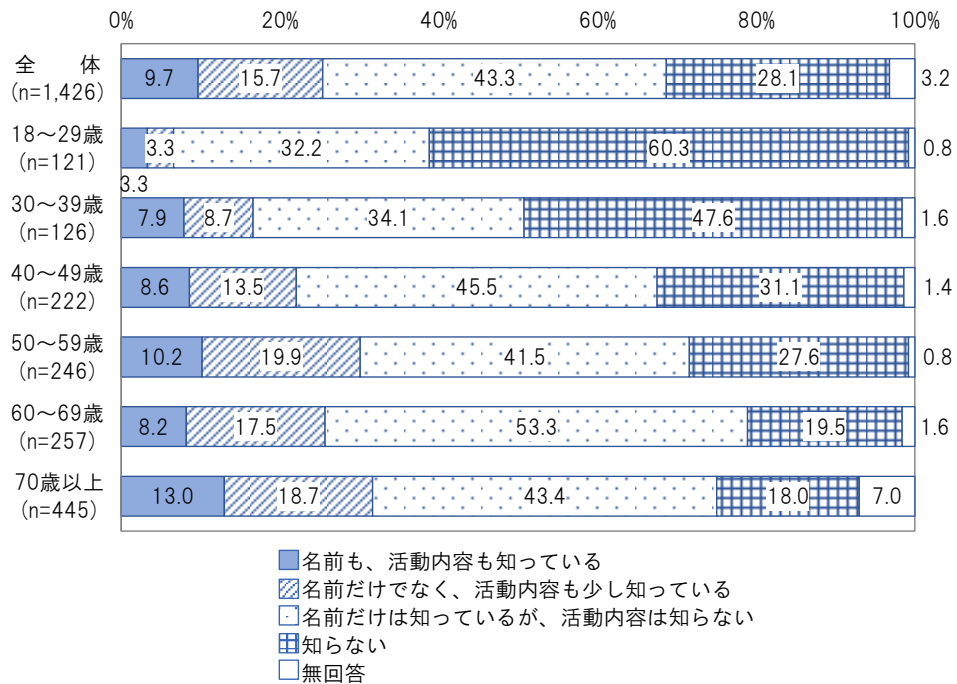
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

6. 福祉に関わる支援者等について

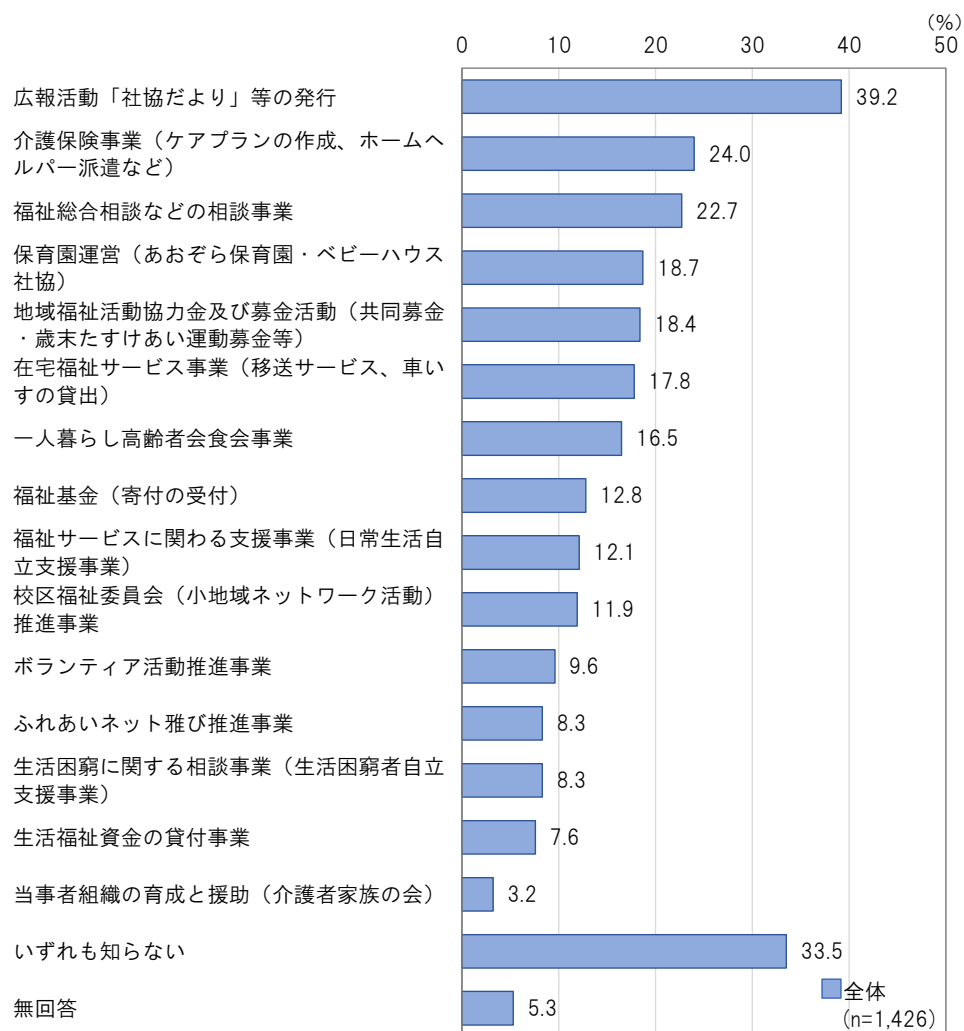
(1) 羽曳野市社会福祉協議会の認知度

- 羽曳野市社会福祉協議会の認知度では、「名前だけは知っているが、活動内容は知らない」が43.3%と4割以上を占めて最も多く、「名前も、活動内容も知っている」(9.7%)と「名前だけでなく、活動内容も少し知っている」(15.7%)を合わせると、活動内容を知っている人が2割以上となっている。
- 一方で、「知らない」が28.1%と3割近くを占めている。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「知らない」の割合が多くなる傾向がみられる。



(2) 羽曳野市社会福祉協議会の活動内容の認知度

- ・羽曳野市社会福祉協議会の活動内容の認知度については、「広報活動「社協だより」等の発行」が39.2%と約4割を占めて最も多く、次いで「介護保険事業（ケアプランの作成、ホームヘルパー派遣など）」（24.0%）、「福祉総合相談などの相談事業」（22.7%）、の順となっている。
- ・また、「いずれも知らない」が33.5%と3割を超えて多くなっている。



- 年代別にみると、40 歳以上では「広報活動「社協だより」等の発行」が最も多くなっているのに対し、18～39 歳では「いずれも知らない」が最も多くなっている。
- 年代が上がるにつれて、「一人暮らし高齢者会食会事業」や「福祉基金（寄付の受付）」の割合が多くなる傾向がみられる。
- その他、50 歳以上では「福祉総合相談などの相談事業」、30～59 歳では「保育園運営（あおぞら保育園・ベビーハウス社協）」が、それぞれその他の年代に比べてやや多くなっている。

(%)

	回答者数（人）	広報活動「社協だより」等の発行	介護保険事業（ケアプランの作成、ホームヘルパー派遣など）	福祉総合相談などの相談事業	保育園運営（あおぞら保育園・ベビーハウス社協）	地域福祉活動協力金及び募金活動（共同募金・歳末たすけあい運動募金等）	在宅福祉サービス事業（移送サービス、車いすの貸出）	一人暮らし高齢者会食会事業	福祉基金（寄付の受付）	福祉サービスに関わる支援事業（日常生活自立支援事業）
18～29歳	121	19.0	7.4	13.2	11.6	5.0	4.1	2.5	3.3	4.1
30～39歳	126	29.4	15.9	17.5	29.4	8.7	12.7	4.0	7.9	11.9
40～49歳	222	40.5	17.6	14.9	32.0	14.4	12.6	9.0	10.8	12.6
50～59歳	246	42.3	24.8	28.5	20.7	14.2	18.7	13.8	13.4	16.3
60～69歳	257	48.6	31.5	26.5	17.1	21.0	17.9	16.3	14.8	14.0
70歳以上	445	40.0	29.0	25.2	11.0	27.4	24.9	29.0	16.4	10.6

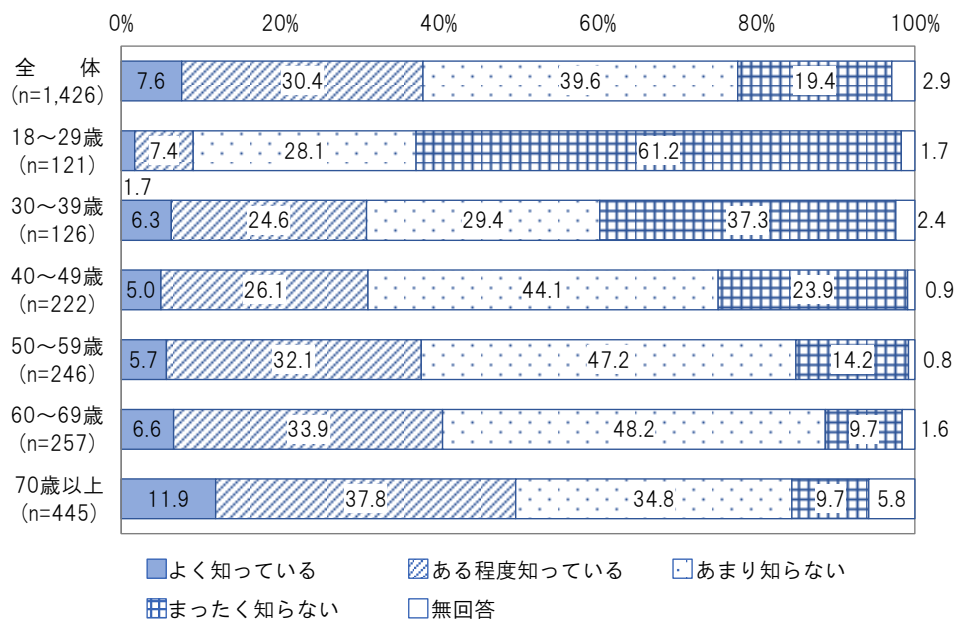
(つづき)	回答者数（人）	校区福祉委員会（小地域ネットワーク活動）推進事業	ボランティア活動推進事業	ふれあいネット雅び推進事業	生活困窮に関する相談事業（生活困窮者自立支援事業）	生活福祉資金の貸付事業	当事者組織の育成と援助（介護者家族の会）	いずれも知らない	無回答
18～29歳	121	5.0	4.1	4.1	6.6	4.1	0.8	66.1	2.5
30～39歳	126	7.9	11.9	6.3	7.9	7.9	1.6	43.7	4.8
40～49歳	222	11.3	9.9	8.1	8.1	8.6	4.5	39.2	2.7
50～59歳	246	13.4	8.9	8.5	9.3	8.1	3.3	32.9	3.3
60～69歳	257	14.4	11.3	7.4	10.1	11.3	2.7	31.1	2.7
70歳以上	445	12.8	9.9	10.3	7.0	5.4	3.8	20.9	9.7

※1 番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

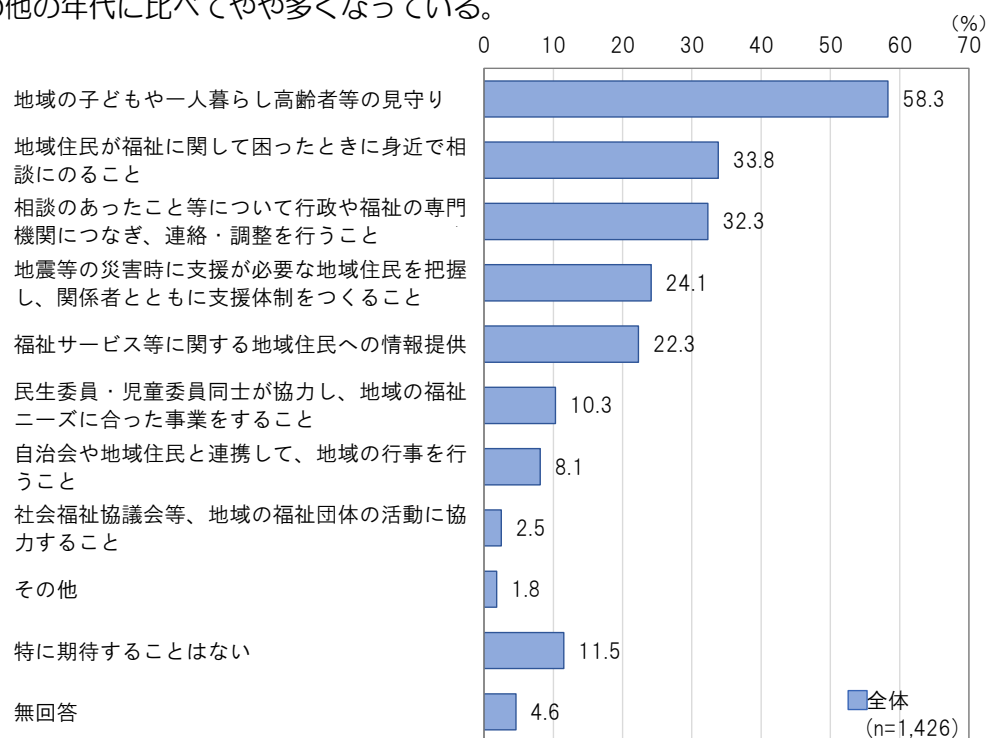
(3) 民生委員・児童委員の役割の認知度

- 民生委員・児童委員の役割の認知度では、「あまり知らない」が39.6%と約4割を占めて最も多く、「まったく知らない」(19.4%)と合わせると、知らない人が約6割となっている。
- 「よく知っている」(7.6%)と「ある程度知っている」(30.4%)を合わせると『知っている』人は4割未満となっている。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて『知っている』の割合が多くなる傾向がみられ、特に70歳以上では約半数となっている。



(4) 民生委員・児童委員に今後期待すること

- ・民生委員・児童委員に今後期待することについては、「地域の子どもや一人暮らし高齢者等の見守り」が 58.3%と6割近くを占めて最も多く、次いで「地域住民が福祉に関して困ったときに身近で相談にのること」(33.8%)、「相談のあったこと等について行政や福祉の専門機関につなぎ、連絡・調整を行うこと」(32.3%) の順となっている。
- ・年代別にみると、60 歳以上では「地域住民が福祉に関して困ったときに身近で相談にのること」で、その他の年代に比べてやや多くなっている。



		(%)										
	回答者数 (人)	地域の子どもや一人暮らし高齢者等の見守り	地域住民が福祉に関して困ったときに身近で相談にのること	相談のあったこと等について行政や福祉の専門機関につなぎ、連絡・調整を行うこと	地震等の災害時に支援が必要な地域住民を把握し、関係者とともに支援体制をつくること	福祉サービス等に関する地域住民への情報提供	民生委員・児童委員同士が協力し、地域の福祉ニーズに合った事業をすること	自治会や地域住民と連携して、地域の行事を行うこと	社会福祉協議会等、地域の福祉団体の活動に協力すること	その他	特に期待することはない	無回答
18～29歳	121	53.7	23.1	17.4	31.4	13.2	6.6	9.9	2.5	2.5	17.4	4.1
30～39歳	126	57.1	25.4	38.1	33.3	17.5	13.5	5.6	2.4	1.6	15.1	1.6
40～49歳	222	59.5	30.2	34.2	28.8	23.4	12.2	8.6	3.6	2.3	11.3	2.7
50～59歳	246	61.8	32.5	39.4	20.3	23.2	9.3	5.7	2.4	1.6	11.8	1.2
60～69歳	257	58.8	40.5	35.4	19.5	24.9	8.2	7.0	2.7	1.6	12.1	3.1
70歳以上	445	57.5	37.5	28.3	22.0	23.8	11.0	9.9	2.0	1.8	8.5	8.5

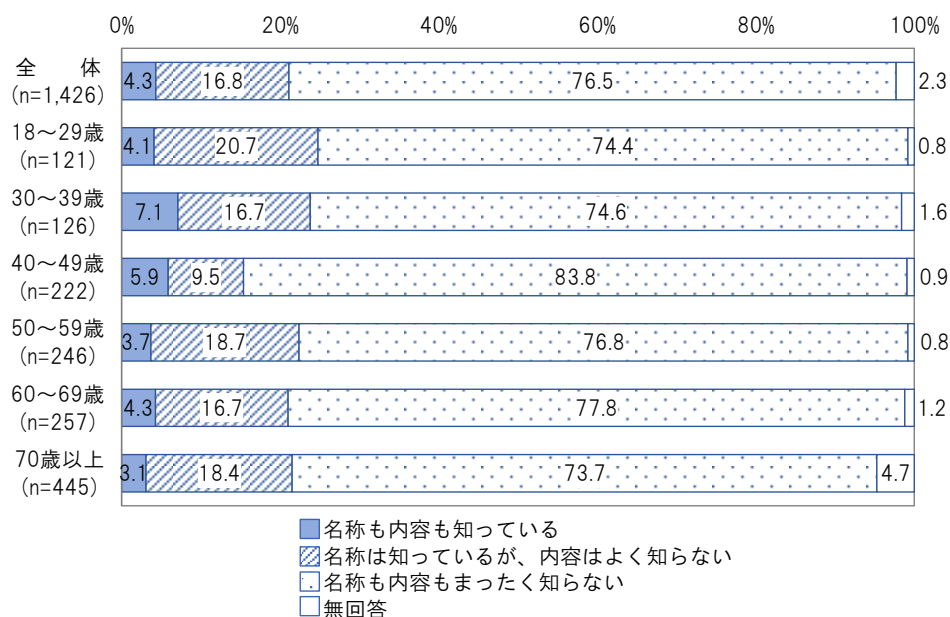
※1 番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(5) コミュニティソーシャルワーカー（CSW）について

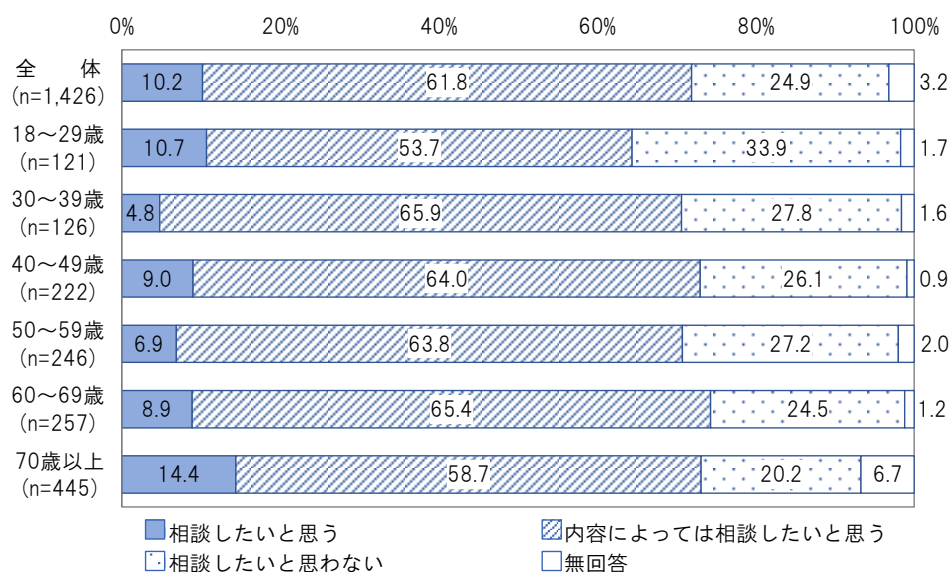
①コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知度

- ・コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の認知度では、「名称も内容もまったく知らない」が76.5%と7割以上を占めており、「名称も内容も知っている」（4.3%）と「名称は知っているが、内容はよく知らない」（16.8%）を合わせた『知っている』人は2割程度となっている。
- ・年代別にみると、認知度には大きな差はみられない。



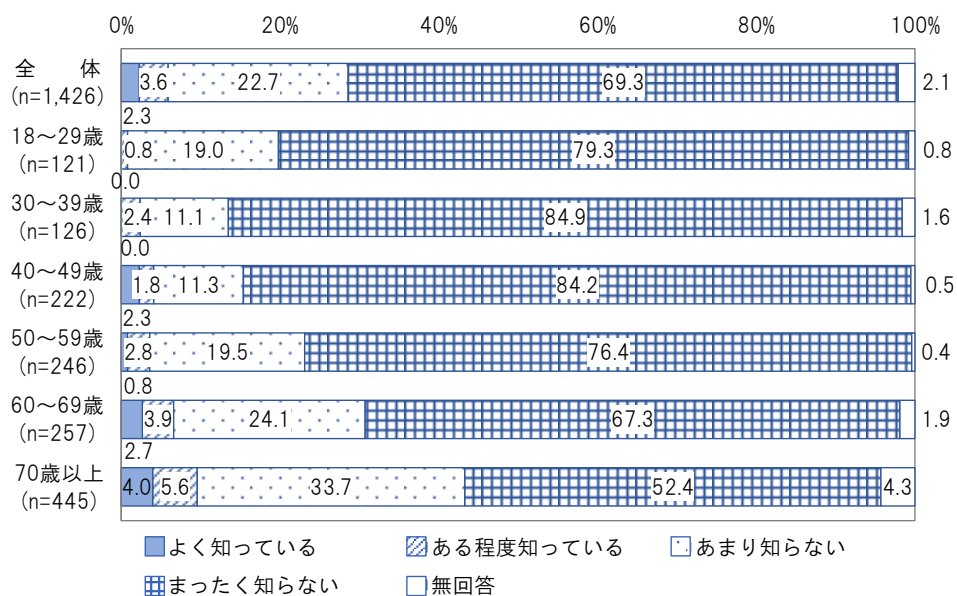
②コミュニティソーシャルワーカー（CSW）への相談意向

- ・コミュニティソーシャルワーカー（CSW）への相談意向では、「内容によっては相談したいと思う」が61.8%と6割以上を占めており、「相談したいと思う」（10.2%）を合わせると『相談したいと思う』人は7割以上となっている。
- ・年代別にみると、相談意向には大きな差はみられない。



(6)「ふれあいネット雅び」の認知度

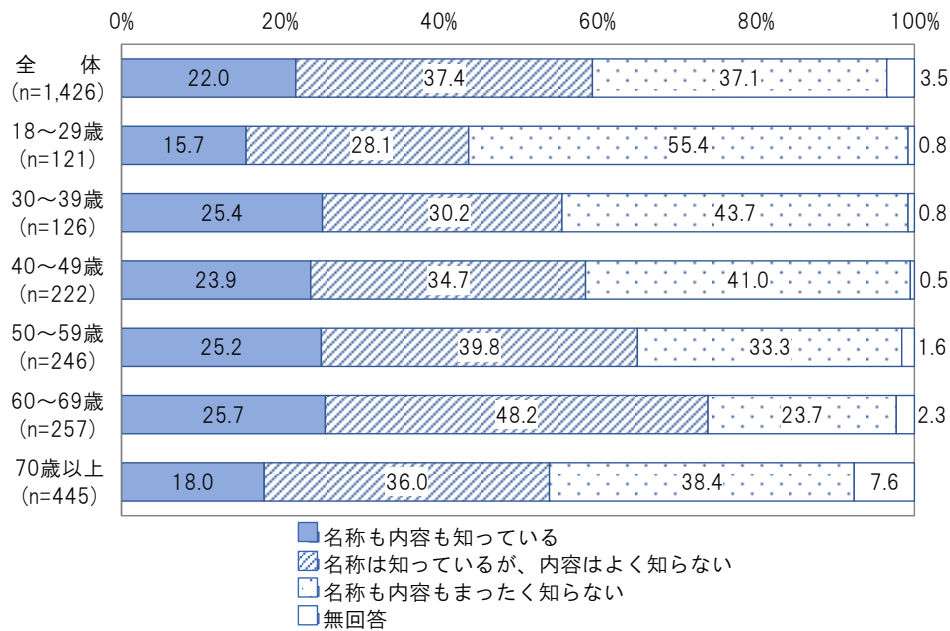
- 「ふれあいネット雅び」の認知度では、「まったく知らない」が69.3%と約7割を占めて最も多く、「あまり知らない」(22.7%)と合わせると、知らない人が9割以上となっている。
- 「よく知っている」(2.3%)と「ある程度知っている」(3.6%)を合わせると『知っている』人は1割未満となっている。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて『知っている』の割合がやや多くなる傾向がみられるものの、大きな差はみられない。



7. 各種制度等について

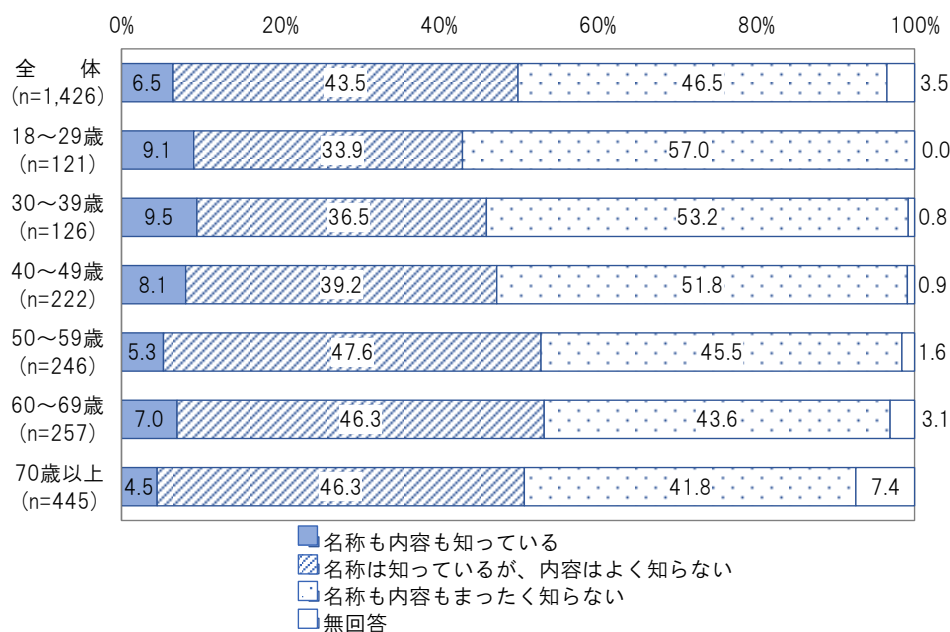
(1) 成年後見制度の認知度

- 成年後見制度の認知度では、「名称は知っているが、内容はよく知らない」が37.4%と4割近くを占めて最も多く、「名称も内容も知っている」(22.0%) と合わせると、名称を知っている人が約6割となっている。一方で、「名称も内容もまったく知らない」が37.1%と4割近くとなっている。
- 年代別にみると、70 歳以上を除いて、年代が上がるにつれて名称を知っている人の割合が多くなる傾向がみられる。



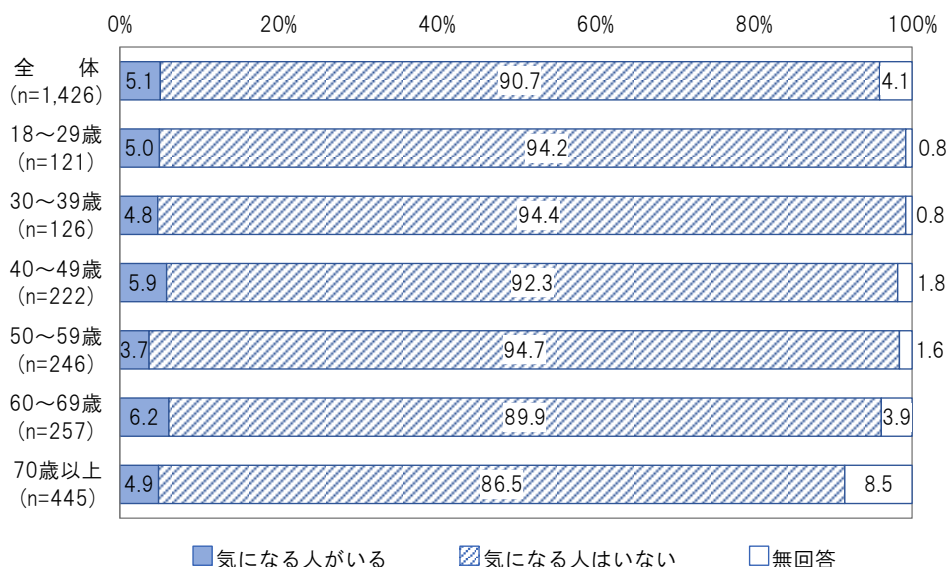
(2) 生活困窮者自立支援法の認知度

- 生活困窮者自立支援法の認知度では、「名称も内容もまったく知らない」が46.5%と4割以上を占めて最も多く、「名称も内容も知っている」(6.5%) と「名称は知っているが、内容はよく知らない」(43.5%) を合わせた『知っている』人は約半数となっている。
- 年代別にみると、認知度には大きな差はみられない。



(3) 身のまわりで生活困窮者に該当する人の有無

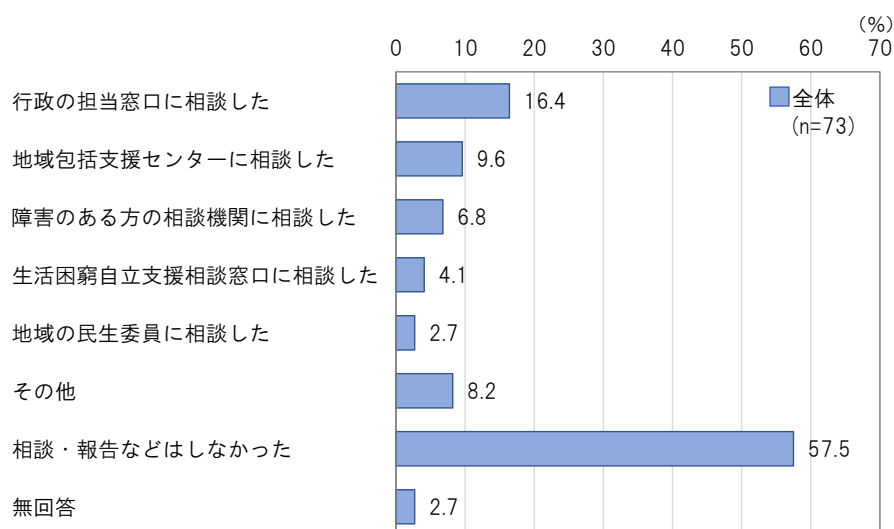
- ・身のまわりで生活困窮者に該当する人の状況では、「気になる人はいない」が90.7%と約9割を占め、「気になる人がある」は5.1%となっている。
- ・年代別にみると、生活困窮者に該当する人の状況には大きな差はみられない。



(4) 地域の生活困窮者についての行政機関への相談状況

※ (3) で「気になる人がある」と回答した人のみ

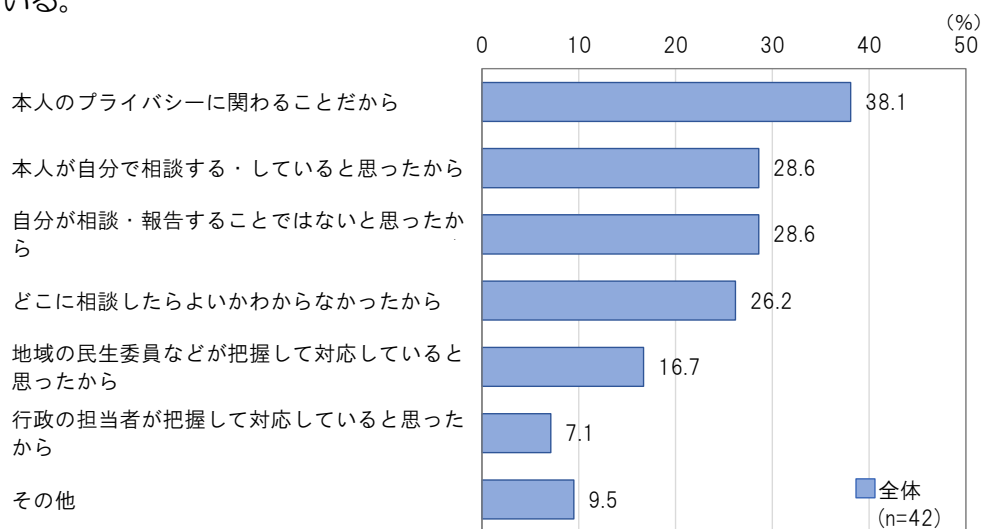
- ・地域で生活困窮者に該当するような気になる人があると回答した人の行政機関への相談状況については、「相談・報告などはしなかった」が57.5%と6割近くを占めて最も多くなっており、相談・報告している人は4割未満となっている。
- ・相談・報告した人では「行政の担当窓口相談した」が16.4%と多く、次いで「地域包括支援センターに相談した」(9.6%)、「障害のある方の相談機関に相談した」(6.8%)の順となっている。



(5) 地域の生活困窮者についての行政機関に相談・報告しなかった理由

※(4)で「相談・報告などはしなかった」と回答した人のみ

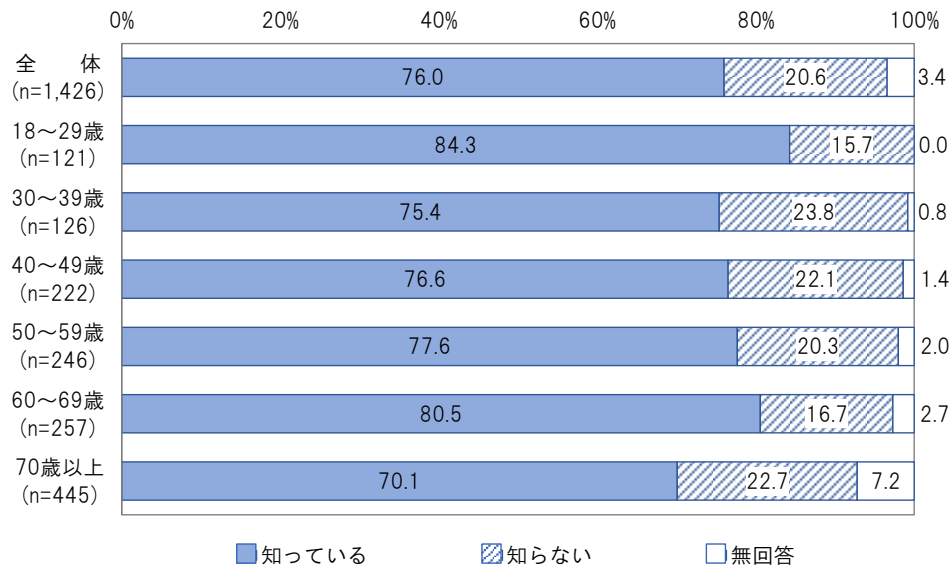
- ・地域で生活困窮者に該当するような気になる人について行政機関に相談・報告しなかった理由については、「本人のプライバシーに関わることだから」が38.1%と4割近くを占めて最も多く、次いで「本人が自分で相談する・していると思ったから」及び「自分が相談・報告することではないと思ったから」(28.6%)、「どこに相談したらよいかわからなかったから」(26.2%)の順となっている。



8. 災害時の対策について

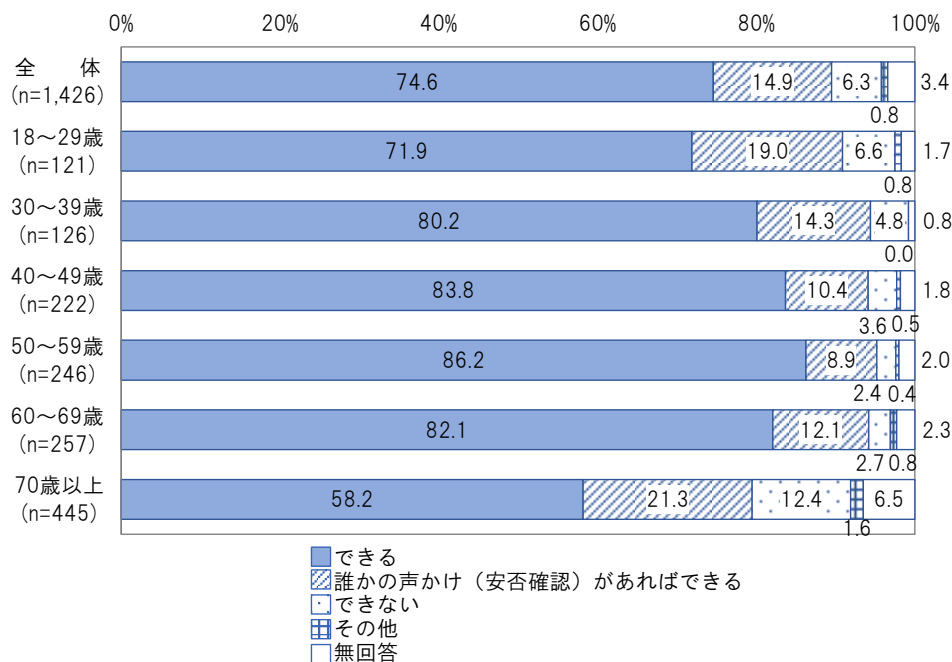
(1) 災害時の避難場所の認知度

- ・災害時の避難場所の認知度では、「知っている」が76.0%と7割以上を占めている一方で、「知らない」が20.6%と約2割となっている。
- ・年代別にみると、「知っている」の割合をみると、18～29歳で84.3%と最も多く、70歳以上で70.1%と最も低くなっている。



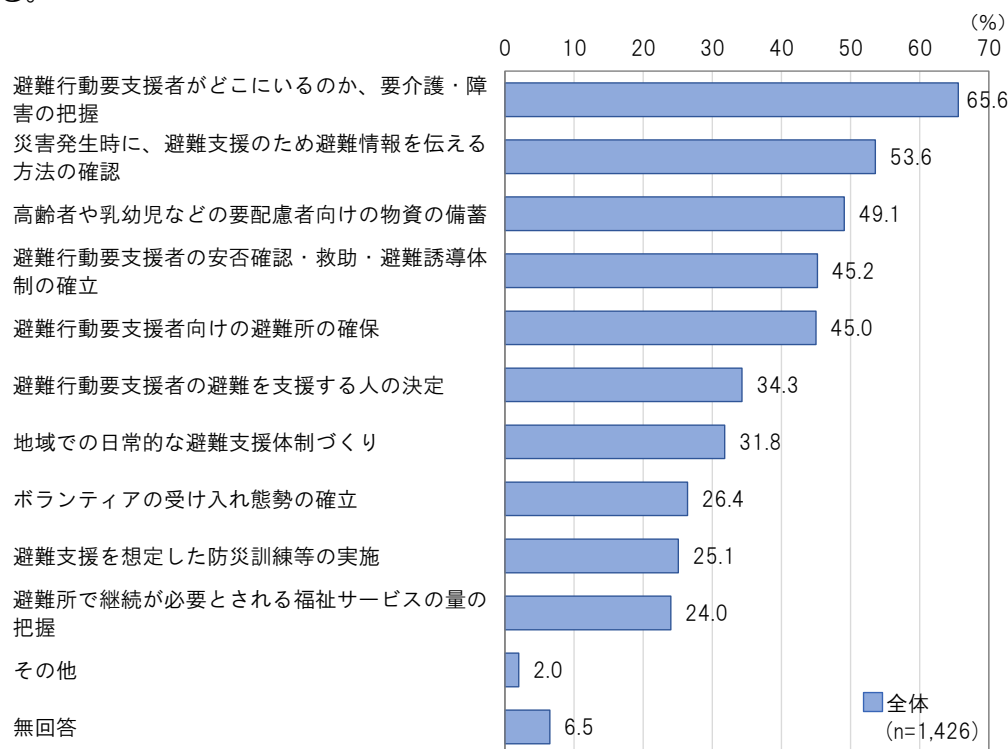
(2) 災害時の一人での避難の可否

- ・災害時の一人での避難の可否では、「できる」が74.6%と7割以上を占めて最も多くなっているものの、「誰かの声かけ（安否確認）があればできる」（14.9%）と「できない」（6.3%）を合わせると、支援が必要な人が2割以上となっている。
- ・年代別にみると、70歳以上では「できない」が12.4%と、その他の年代に比べてやや多くなっている。



(3) 災害時に支援を必要とする人への必要な支援対策

- ・災害時に支援を必要とする人への必要な支援対策については、「避難行動要支援者がどこにいるのか、要介護・障害の把握」が 65.6%と6割以上を占めて最も多く、次いで「災害発生時に、避難支援のため避難情報を伝える方法の確認」(53.6%)、「高齢者や乳幼児などの要配慮者向けの物資の備蓄」(49.1%)の順となっている。
- ・年代別にみると、18～29 歳では「地域での日常的な避難支援体制づくり」、30～39 歳では「高齢者や乳幼児などの要配慮者向けの物資の備蓄」で、それぞれその他の年代に比べてやや多くなっている。



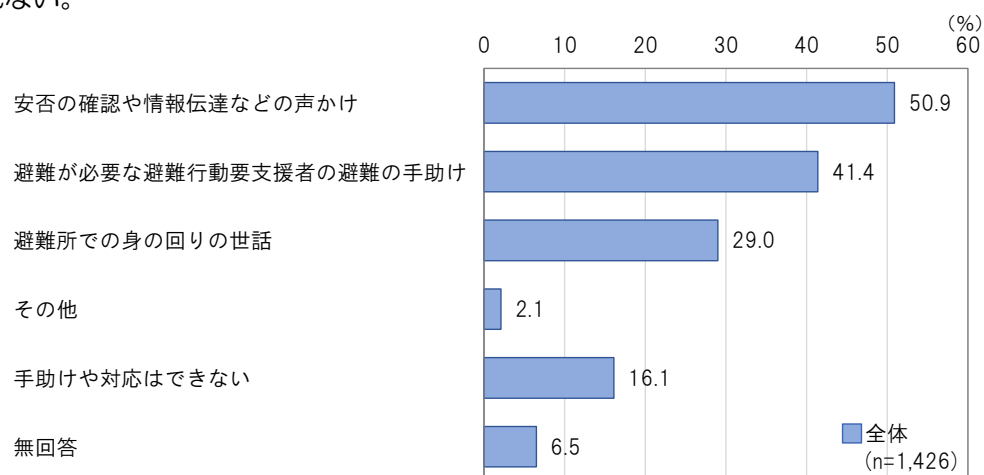
		(%)											
	回答者数 (人)	避難行動要支援者がどこにいるのか、要介護・障害の把握	災害発生時に、避難支援のため避難情報を伝える方法の確認	高齢者や乳幼児などの要配慮者向けの物資の備蓄	避難行動要支援者の安否確認・救助・避難誘導体制の確立	避難行動要支援者向けの避難所の確保	避難行動要支援者の避難を支援する人の決定	地域での日常的な避難支援体制づくり	ボランティアの受け入れ態勢の確立	避難支援を想定した防災訓練等の実施	避難所で継続が必要とされる福祉サービスの量の把握	その他	無回答
18～29歳	121	76.0	50.4	47.9	47.1	52.9	28.9	40.5	30.6	25.6	28.1	3.3	1.7
30～39歳	126	69.8	46.8	64.3	46.0	51.6	39.7	29.4	34.1	19.8	29.4	0.8	1.6
40～49歳	222	66.7	58.1	53.2	53.6	52.3	36.0	30.6	29.7	25.2	25.7	0.9	3.2
50～59歳	246	71.1	60.6	50.8	50.0	45.1	42.3	32.9	29.7	30.5	26.0	3.3	2.8
60～69歳	257	69.3	58.0	45.1	48.6	45.9	37.4	30.7	24.1	28.8	21.4	0.8	4.7
70歳以上	445	56.2	48.3	44.7	36.2	36.9	27.6	30.8	21.6	21.6	21.1	2.5	13.5

※1 番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(4) 災害時における避難行動要支援者に手助けできること

- ・災害時における避難行動要支援者に手助けできることについては、「安否の確認や情報伝達などの声かけ」が 50.9%と約半数を占めて最も多く、次いで「避難が必要な避難行動要支援者の避難の手助け」(41.4%)、「避難所での身の回りの世話」(29.0%)の順となっている。
- ・年代別にみると、70 歳以上では「手助けや対応はできない」が 23.1%と2割を超え、その他の年代に比べてやや多くなっているものの、すべての年代で「安否の確認や情報伝達などの声かけ」が最も多く、次いで「避難が必要な避難行動要支援者の避難の手助け」となっており、大きな差はみられない。



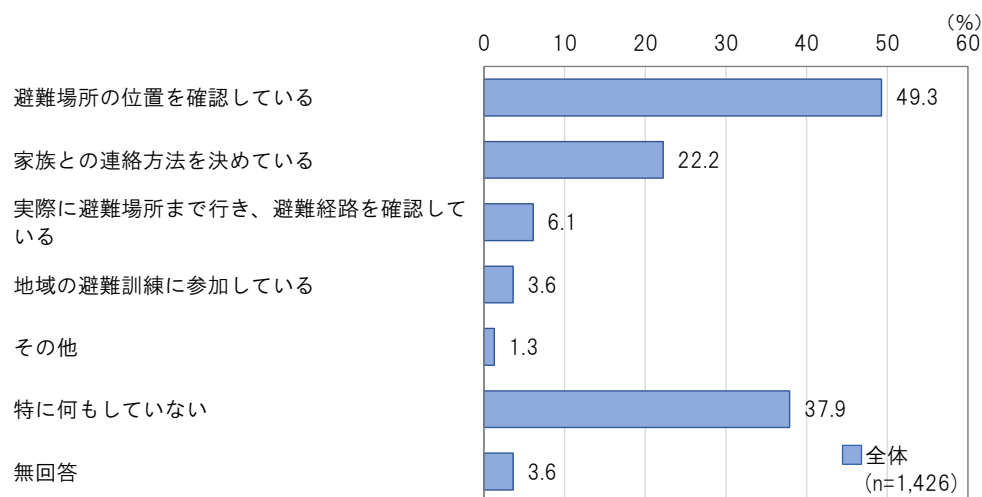
	回答者数 (人)	安否の確認や情報伝達などの声かけ	避難が必要な避難行動要支援者の避難の手助け	避難所での身の回りの世話	その他	手助けや対応はできない	無回答
18～29歳	121	51.2	45.5	30.6	3.3	12.4	0.8
30～39歳	126	52.4	50.0	26.2	3.2	17.5	1.6
40～49歳	222	52.3	48.2	32.4	1.8	10.8	4.1
50～59歳	246	56.5	44.3	31.7	2.8	11.4	4.9
60～69歳	257	52.5	44.4	33.1	2.3	14.4	3.9
70歳以上	445	46.5	31.0	24.3	1.1	23.1	12.4

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(5) 避難しなければならない事態に備えての対策の状況

- 避難しなければならない事態に備えての対策の状況については、「避難場所の位置を確認している」が49.3%と約半数を占めて最も多く、次いで「家族との連絡方法を決めている」(22.2%)の順となっている。
- 一方で、「特に何もしていない」が37.9%と4割近くを占めている。
- 年代別にみると、30～39歳・50～59歳では「特に何もしていない」が4割以上を占めて、その他の年代に比べてやや多くなっているものの、年代別による大きな差はみられない。



	回答者数 (人)	避難場所の位置を確認している (%)	家族との連絡方法を決めている (%)	実際に避難場所まで行き、避難経路を確認している (%)	地域の避難訓練に参加している (%)	その他 (%)	特に何もしていない (%)	無回答 (%)
18～29歳	121	51.2	24.0	5.0	1.7	5.0	39.7	1.7
30～39歳	126	46.8	17.5	4.8	-	1.6	42.1	1.6
40～49歳	222	50.5	22.5	5.4	3.2	0.9	37.4	2.3
50～59歳	246	46.3	22.0	4.9	0.8	1.2	41.5	1.6
60～69歳	257	56.0	21.8	4.7	5.4	0.8	33.9	3.1
70歳以上	445	46.7	23.1	8.5	5.8	0.7	37.1	6.3

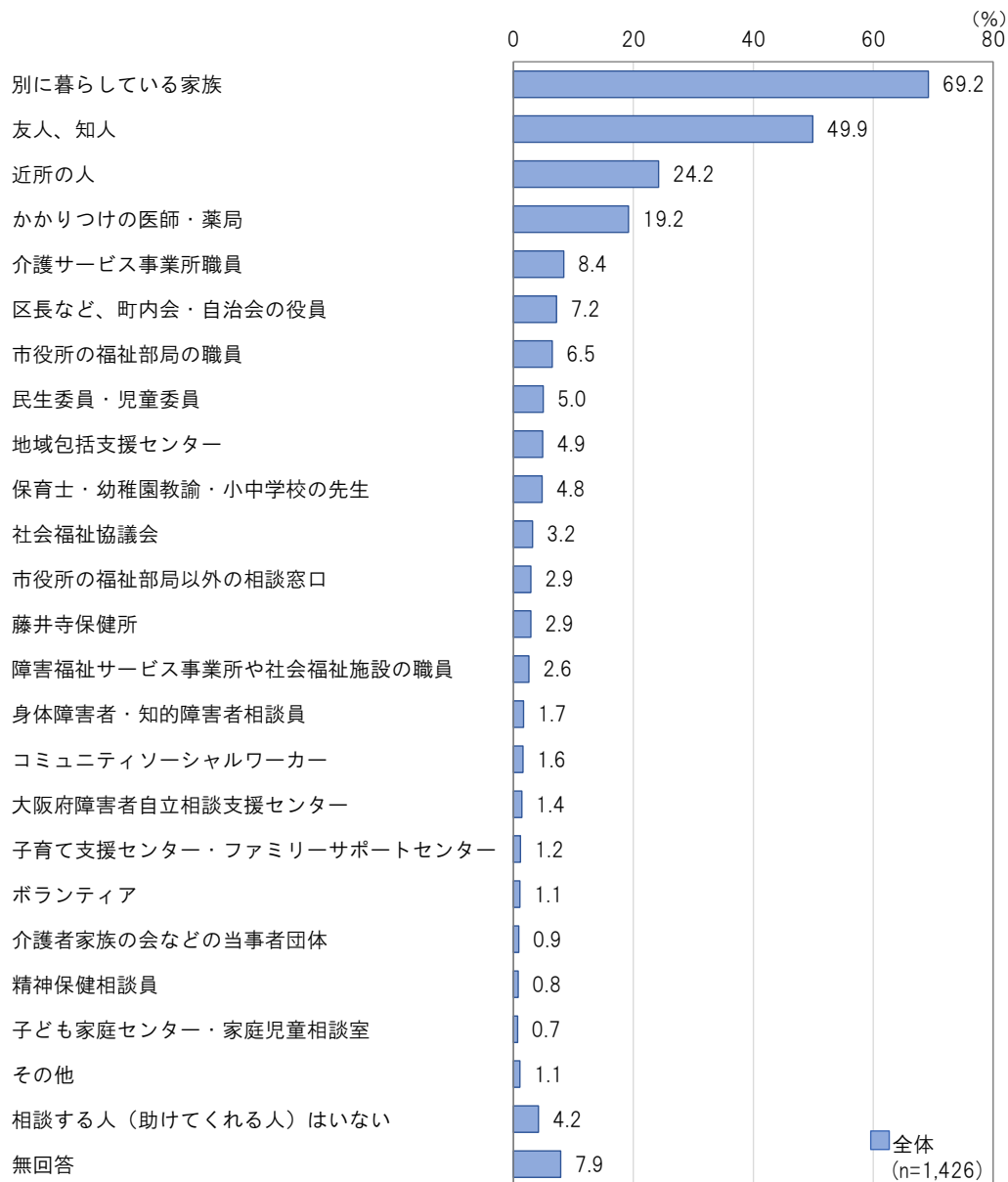
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

9. 生活上の悩みや手助け等について

(1) ふだんの生活で同居の家族以外の手助けが必要になったときに相談できる人

- ・ふだんの生活で同居の家族以外の手助けが必要になったときに相談できる人では、「別に暮らしている家族」が 69.2%と約7割を占めて最も多く、次いで「友人、知人」(49.9%)、「近所の人」(24.2%)、「かかりつけの医師・薬局」(19.2%)の順となっている。



- 年代別にみると、18～29 歳では「友人、知人」が最も多く、その他の年代では「別に暮らしている家族」が最も多くなっている。
- 概ね、年代が上がるにつれて「介護サービス事業所職員」や「区長など、町内会・自治会の役員」の割合が増える傾向がみられる。
- 30～49 歳では「保育士・幼稚園教諭・小中学校の先生」が1 割以上となっており、その他の年代に比べてやや多くなっている。

(%)

	回答者数（人）	別に暮らしている家族	友人、知人	近所の人	かかりつけの医師・薬局	介護サービス事業所職員	区長など、町内会・自治会の役員	市役所の福祉部局の職員	民生委員・児童委員	地域包括支援センター	保育士・幼稚園教諭・小中学校の先生	社会福祉協議会	市役所の福祉部局以外の相談窓口	藤井寺保健所
18～29歳	121	56.2	75.2	15.7	11.6	1.7	5.0	2.5	0.8	1.7	5.8	-	1.7	-
30～39歳	126	75.4	71.4	23.0	22.2	4.8	3.2	7.1	2.4	1.6	16.7	3.2	4.0	5.6
40～49歳	222	79.3	62.2	25.2	18.0	5.4	3.6	7.7	3.2	2.3	12.6	1.8	2.7	2.3
50～59歳	246	71.1	52.4	25.6	14.6	6.9	4.9	4.9	1.6	5.3	2.8	3.7	3.3	3.3
60～69歳	257	70.0	45.9	24.1	21.0	7.8	7.4	8.6	2.3	4.7	0.8	4.7	3.9	1.6
70歳以上	445	64.3	32.1	25.6	22.7	14.2	11.7	6.7	11.0	8.1	0.7	3.6	2.5	3.6

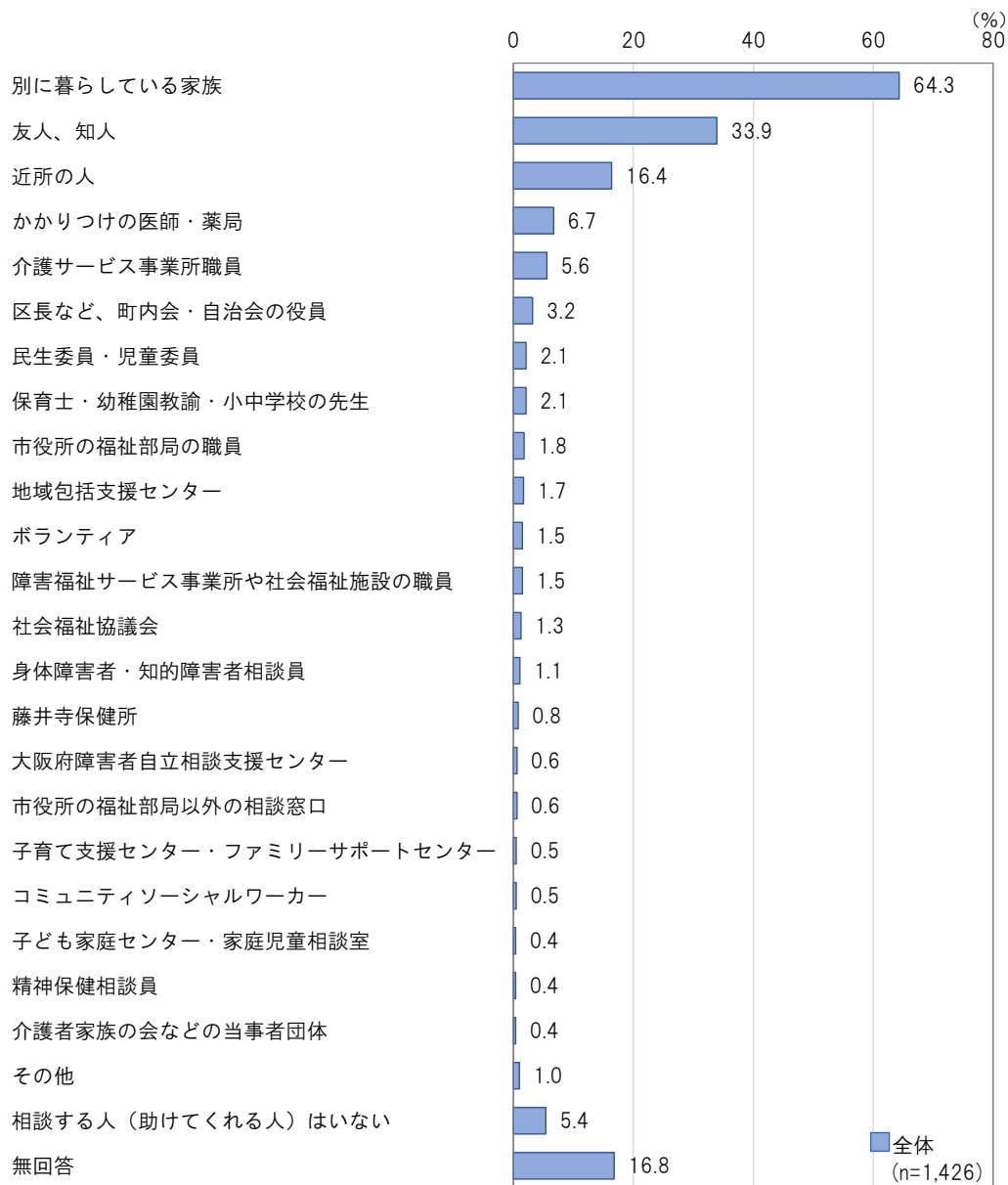
(つづき)	回答者数（人）	障害福祉サービス事業所や社会福祉施設の職員	身体障害者・知的障害者相談員	コミュニティソーシャルワーカー	大阪府障害者自立相談支援センター	子育て支援センター・ファミリーサポートセンター	ボランティア	介護者家族の会などの当事者団体	精神保健相談員	子ども家庭センター・家庭児童相談室	その他	相談する人はいない	無回答
18～29歳	121	1.7	0.8	-	-	2.5	2.5	-	-	-	0.8	5.8	2.5
30～39歳	126	7.1	0.8	1.6	1.6	4.8	1.6	1.6	2.4	2.4	0.8	3.2	4.0
40～49歳	222	3.2	2.7	2.3	1.4	1.4	0.9	0.9	1.4	0.9	1.8	2.7	4.1
50～59歳	246	1.6	1.2	1.2	1.6	0.4	0.8	1.2	-	-	1.6	6.1	7.7
60～69歳	257	2.7	2.7	1.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	6.6	5.8
70歳以上	445	1.8	1.3	2.2	2.2	0.7	1.3	1.1	1.1	0.9	1.1	2.5	13.5

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(2) ふだんの生活で同居の家族以外の手助けが必要になったときに助けてくれる人

- ・ふだんの生活で同居の家族以外の手助けが必要になったときに助けてくれる人では、「別に暮らしている家族」が64.3%と6割以上を占めて最も多く、次いで「友人、知人」(33.9%)、「近所の人」(16.4%)の順となっている。



- 年代別にみると、18～29 歳では「友人、知人」が最も多く、その他の年代では「別に暮らしている家族」が最も多くなっている。
- 年代が下がるにつれて「友人、知人」の割合が増える傾向がみられる。
- 18～39 歳では「助けてくれる人はいない」が1 割近くとなっており、その他の年代に比べてやや多くなっている。

(%)

	回答者数（人）	別に暮らしている家族	友人、知人	近所の人	かかりつけの医師・薬局	介護サービス事業所職員	区長など、町内会・自治会の役員	民生委員・児童委員	保育士・幼稚園教諭・小中学校の先生	市役所の福祉部局の職員	地域包括支援センター	ボランティア	障害福祉サービス事業所や社会福祉施設の職員	社会福祉協議会
18～29歳	121	52.9	56.2	10.7	2.5	1.7	1.7	0.8	3.3	-	-	1.7	0.8	-
30～39歳	126	69.8	44.4	14.3	8.7	4.8	0.8	-	7.1	2.4	0.8	2.4	4.8	0.8
40～49歳	222	73.0	41.9	17.6	8.1	2.3	1.8	1.4	4.5	3.6	1.4	0.5	1.4	1.8
50～59歳	246	64.2	35.0	16.3	3.7	5.3	2.0	0.4	1.2	0.8	3.3	0.4	0.8	2.0
60～69歳	257	66.5	30.0	15.2	7.0	5.4	5.1	1.9	0.8	1.9	1.2	1.9	1.9	2.3
70歳以上	445	60.2	22.9	18.7	8.1	9.0	4.7	4.3	0.4	1.8	2.0	2.0	0.9	0.7

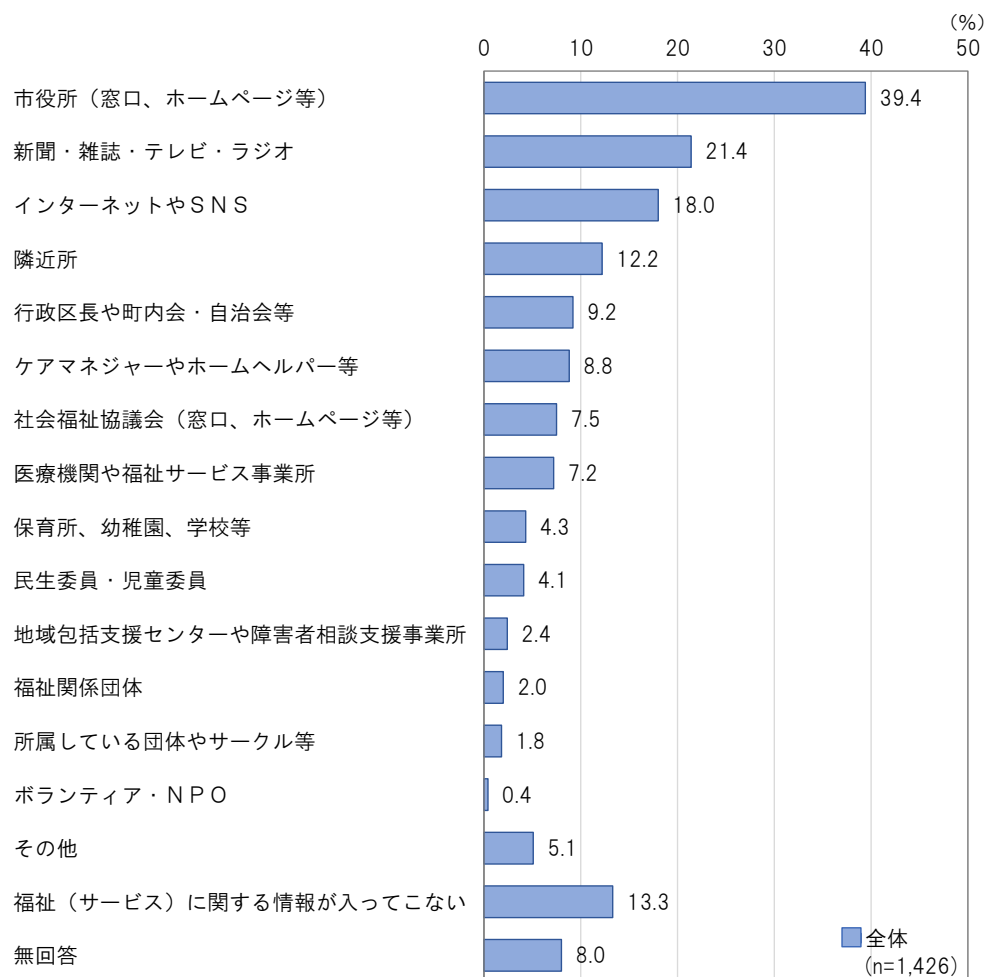
(つづき)	回答者数（人）	身体障害者・知的障害者相談員	藤井寺保健所	大阪府障害者自立相談支援センター	市役所の福祉部局以外の相談窓口	子育て支援センター・ファミリーサポートセンター	コミュニティソーシャルワーカー	子ども家庭センター・家庭児童相談室	精神保健相談員	介護者家族の会などの当事者団体	その他	助けてくれる人はいない	無回答
18～29歳	121	-	-	-	0.8	-	-	-	-	-	0.8	8.3	8.3
30～39歳	126	0.8	0.8	-	0.8	-	-	-	-	-	-	9.5	7.9
40～49歳	222	1.8	0.9	0.9	1.4	1.4	0.9	0.5	0.5	0.5	0.9	4.1	12.6
50～59歳	246	0.8	0.8	0.8	-	0.4	0.8	0.4	0.8	-	1.6	7.3	15.0
60～69歳	257	1.9	0.4	0.8	0.8	0.4	0.4	0.4	-	0.8	0.4	7.0	17.1
70歳以上	445	0.9	1.1	0.7	0.4	0.4	0.4	0.7	0.7	0.4	1.3	2.2	24.3

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(3) 福祉サービスに関する情報の入手先

- 福祉サービスに関する情報の入手先では、「市役所（窓口、ホームページ等）」が 39.4%と約4割を占めて最も多く、次いで「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」(21.4%)、「インターネットや SNS」(18.0%)、「隣近所」(12.2%) の順となっている。
- 一方で、「福祉（サービス）に関する情報が入ってこない」が 13.3%と1割以上となっている。



- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「福祉（サービス）に関する情報が入ってこない」の割合が増える傾向がみられ、特に 18～29 歳では 28.9%と3割近くを占めている。
- 18～49 歳では「インターネットやSNS」、60 歳以上では「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が、それぞれその他の年代に比べてやや多くなっている。
- 概ね、年代が上がるにつれて「隣近所」や「行政区長や町内会・自治会等」の割合が増える傾向がみられる。

(%)

	回答者数（人）	市役所（窓口、ホームページ等）	新聞・雑誌・テレビ・ラジオ	インターネットやSNS	隣近所	行政区長や町内会・自治会等	ケアマネジャーやホームヘルパー等	社会福祉協議会（窓口、ホームページ等）	医療機関や福祉サービス事業所	保育所、幼稚園、学校等
18～29歳	121	26.4	19.0	32.2	7.4	4.1	0.8	4.1	4.1	7.4
30～39歳	126	39.7	12.7	37.3	4.8	4.0	2.4	2.4	7.9	14.3
40～49歳	222	47.3	12.6	31.1	9.0	4.5	5.4	5.4	8.1	10.8
50～59歳	246	46.7	19.1	23.2	12.6	7.3	14.2	9.8	6.1	2.4
60～69歳	257	49.4	28.8	10.9	12.8	8.6	9.3	8.2	5.8	0.8
70歳以上	445	29.2	25.6	3.4	16.6	15.5	11.5	9.2	8.8	0.7

(つづき)	回答者数（人）	民生委員・児童委員	地域包括支援センターや障害者相談支援事業所	福祉関係団体	所属している団体やサークル等	ボランティア・NPO	その他	福祉（サービス）に関する情報が入ってこない	無回答
18～29歳	121	-	1.7	1.7	-	0.8	7.4	28.9	3.3
30～39歳	126	-	-	1.6	0.8	-	4.0	20.6	4.0
40～49歳	222	1.4	2.3	0.9	0.9	-	4.5	16.7	3.2
50～59歳	246	1.2	3.3	2.0	1.6	0.8	5.3	13.0	5.3
60～69歳	257	1.9	2.7	2.3	2.3	0.4	5.8	10.9	5.4
70歳以上	445	10.3	2.7	2.7	2.7	0.4	4.7	7.0	15.1

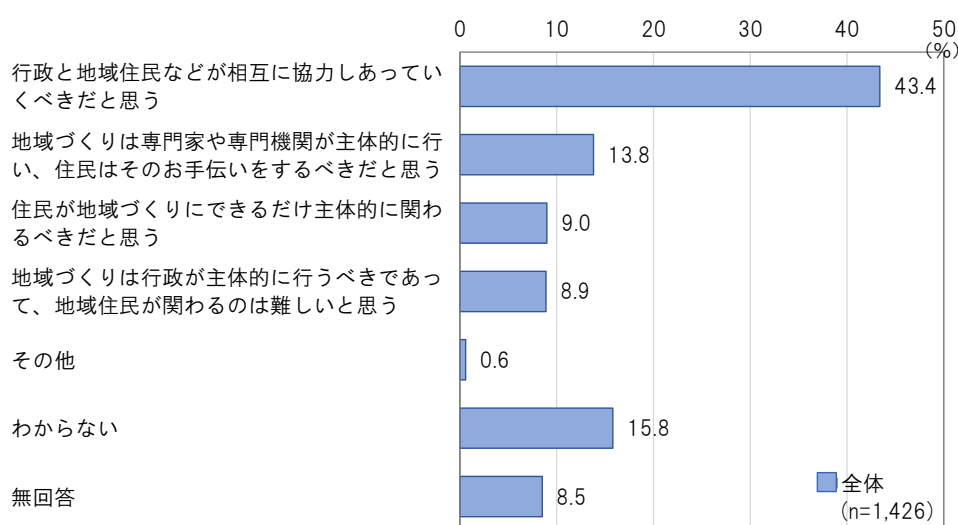
※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

10. 今後の福祉行政のあり方について

(1) これからの地域づくりと住民との関わりについての考え

- これからの地域づくりと住民との関わりについての考えでは、「行政と地域住民などが相互に協力しあっていくべきだと思う」が 43.4%と4割以上を占めて最も多く、次いで「地域づくりは専門家や専門機関が主体的に行い、住民はそのお手伝いをするべきだと思う」(13.8%)の順となっている。
- 年代別にみると、すべての年代で「行政と地域住民などが相互に協力しあっていくべきだと思う」が最も多く、次いで「地域づくりは専門家や専門機関が主体的に行い、住民はそのお手伝いをするべきだと思う」となっており、大きな差はみられない。



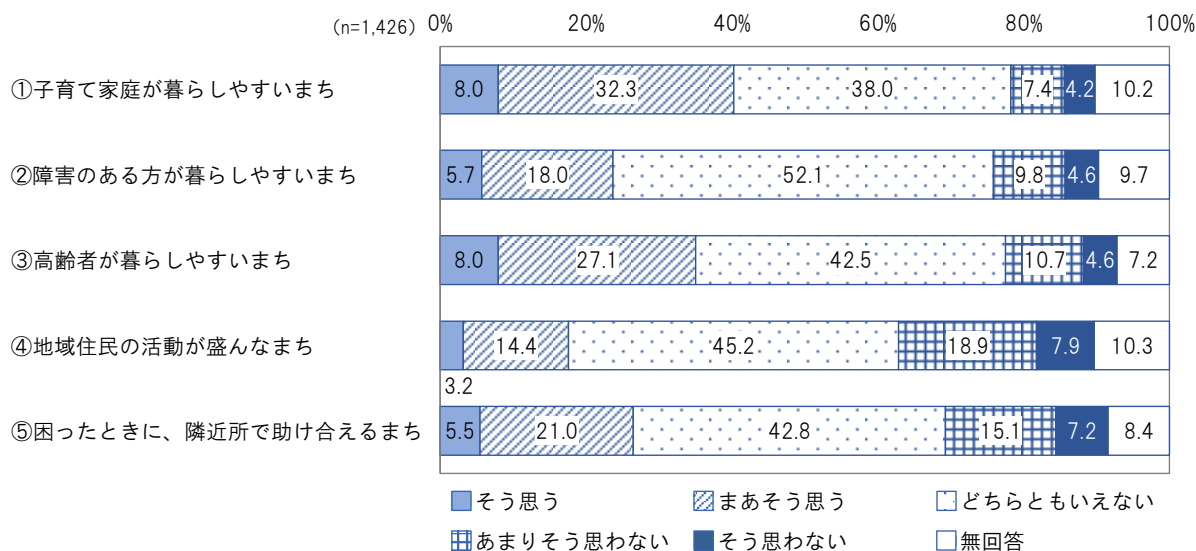
	回答者数 (人)	行政と地域住民などが相互に協力しあっていくべきだと思う	地域づくりは専門家や専門機関が主体的に行い、住民はそのお手伝いをするべきだと思う	住民が地域づくりにできるだけ主体的に関わるべきだと思う	地域づくりは行政が主体的に行うべきであって、地域住民が関わるのは難しいと思う	その他	わからない	無回答
18～29歳	121	41.3	12.4	9.9	6.6	0.8	24.0	5.0
30～39歳	126	48.4	13.5	7.9	9.5	0.8	15.9	4.0
40～49歳	222	41.0	16.2	8.6	12.2	-	16.7	5.4
50～59歳	246	43.9	18.7	7.7	10.2	0.8	14.6	4.1
60～69歳	257	53.3	13.2	7.8	6.6	0.4	13.2	5.4
70歳以上	445	37.8	11.0	10.3	8.5	0.7	15.5	16.2

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

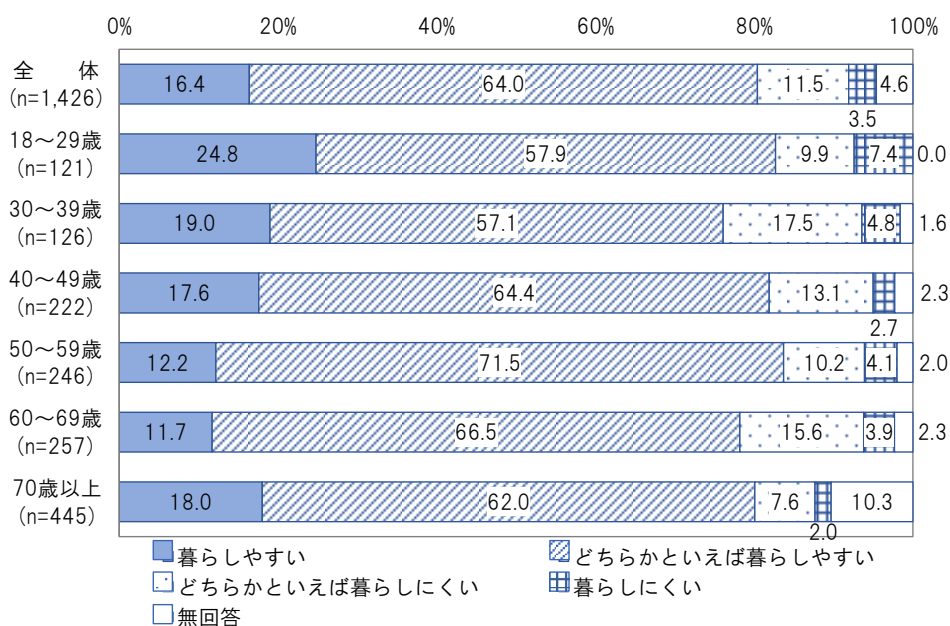
(2) 羽曳野市の地域福祉に対する印象

- ・羽曳野市の地域福祉に対する印象では、「そう思う」と「まあそう思う」を合わせた『そう思う』の割合をみると、“①子育て家庭が暮らしやすいまち”で40.3%と約4割を占めて最も高く、次いで“③高齢者が暮らしやすいまち”が35.1%となっている。
- ・“④地域住民の活動が盛んなまち”や“⑤困ったときに、隣近所で助け合えるまち”においては、『そう思わない』（「あまりそう思わない」＋「そう思わない」）が2割以上を占め、その他の項目に比べてやや多くなっている。



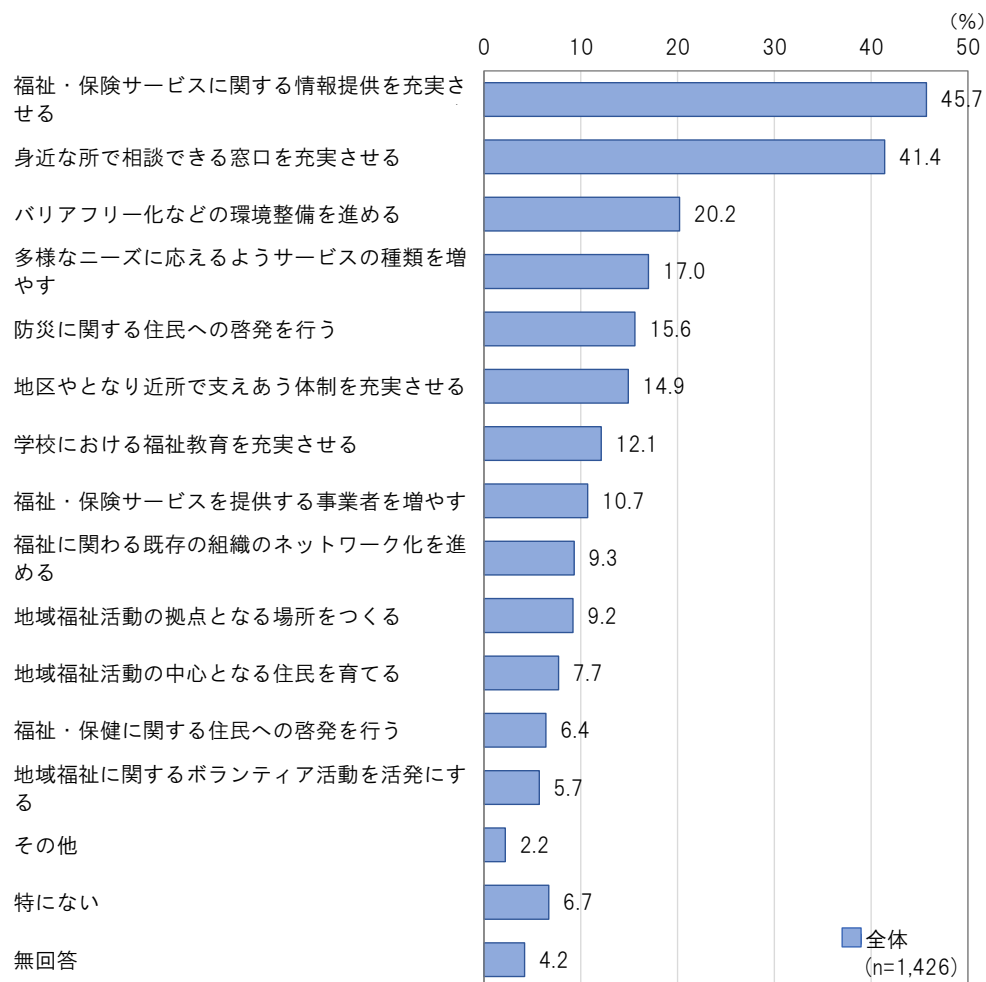
(3) 羽曳野市の暮らしやすさ

- ・羽曳野市の暮らしやすさについては、「どちらかといえば暮らしやすい」が64.0%と6割以上を占めて最も多く、「暮らしやすい」（16.4%）と合わせると、羽曳野市を暮らしやすいと感じている人が約8割となっている。
- ・年代別にみると、30～39歳で『暮らしにくい』（「どちらかといえば暮らしにくい」＋「暮らしにくい」）が2割以上と、その他の年代に比べて多くなっているものの、大きな差はみられない。



(4) 福祉のまちづくりのために優先して取り組むべきこと

- ・福祉のまちづくりのために優先して取り組むべきことについては、「福祉・保険サービスに関する情報提供を充実させる」が 45.7%と4割以上を占めて最も多く、次いで「身近な所で相談できる窓口を充実させる」(41.4%)、「バリアフリー化などの環境整備を進める」(20.2%) の順となっている。



- ・年代別にみると、70 歳以上では「身近な所で相談できる窓口を充実させる」が最も多く、その他の年代では「福祉・保険サービスに関する情報提供を充実させる」が最も多くなっている。
- ・概ね、年代が上がるにつれて「地区やとなり近所で支えあう体制を充実させる」の割合が増える傾向がみられる。
- ・18～49 歳では「学校における福祉教育を充実させる」、50～59 歳では「地域福祉活動の拠点となる場所をつくる」、60 歳以上では「地域福祉活動の中心となる住民を育てる」が、それぞれその他の年代に比べてやや多くなっている。

(%)

	回答者数（人）	福祉・保険サービスに関する情報提供を充実させる	身近な所で相談できる窓口を充実させる	バリアフリー化などの環境整備を進める	多様なニーズに応えるようサービスの種類を増やす	防災に関する住民への啓発を行う	地区やとなり近所で支えあう体制を充実させる	学校における福祉教育を充実させる	福祉・保険サービスを提供する事業者を増やす
18～29歳	121	43.8	30.6	25.6	23.1	18.2	7.4	20.7	9.1
30～39歳	126	38.9	27.8	26.2	21.4	22.2	6.3	32.5	9.5
40～49歳	222	44.6	39.2	23.0	18.9	17.6	11.7	22.1	9.9
50～59歳	246	48.4	43.1	21.5	16.3	19.1	11.8	7.7	14.2
60～69歳	257	54.1	46.7	17.5	20.2	15.2	15.6	7.0	7.8
70歳以上	445	42.9	45.2	16.6	11.7	10.3	21.8	4.3	11.2

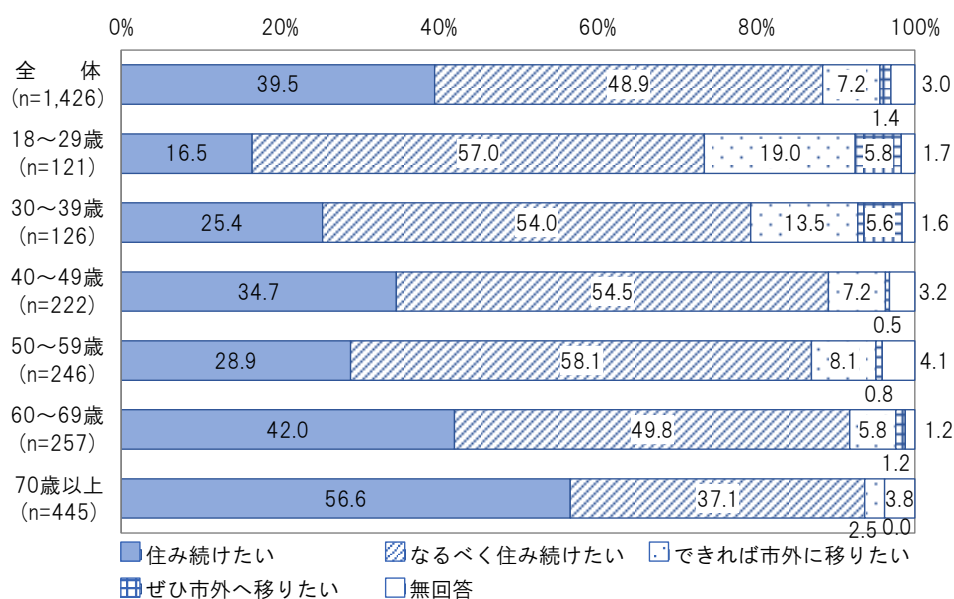
(つづき)	回答者数（人）	福祉に関わる既存の組織のネットワーク化を進める	地域福祉活動の拠点となる場所をつくる	地域福祉活動の中心となる住民を育てる	福祉・保健に関する住民への啓発を行う	地域福祉に関するボランティア活動を活発にする	その他	特にない	無回答
18～29歳	121	11.6	5.0	4.1	9.9	11.6	3.3	9.9	2.5
30～39歳	126	7.9	8.7	5.6	5.6	7.1	3.2	13.5	1.6
40～49歳	222	10.4	8.1	5.9	5.9	4.5	2.7	5.4	1.8
50～59歳	246	8.5	13.0	4.9	4.5	5.3	3.3	6.9	2.4
60～69歳	257	10.1	8.9	10.5	7.4	5.4	1.2	4.7	2.3
70歳以上	445	8.3	9.0	10.1	6.5	4.5	1.6	5.6	8.3

※1 番目に割合の高い回答を「太字＋濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

※年代不明がいるため、年代別の回答者数の合計数は全体の回答数と一致しない。

(5) 羽曳野市での今後の居住意向

- 羽曳野市での今後の居住意向については、「なるべく住み続けたい」が48.9%と半数近くを占めて最も多く、「住み続けたい」(39.5%) と合わせると、羽曳野市に住み続けたい人が9割近くとなっている。
- 一方で、「できれば市外に移りたい」(7.2%) と「ぜひ市外へ移りたい」(1.4%) を合わせると、市外に移りたいと考えている人が1割近くとなっている。
- 年代別にみると、概ね、年齢が下がるにつれて羽曳野市に住み続けたい人の割合が少なくなる傾向がみられ、18～29歳では7割程度となっている。



地域福祉に関するアンケート調査

～ご協力のお願い～

皆様には、日ごろから市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

現在、地域福祉の推進のため、羽曳野市および羽曳野市社会福祉協議会は「第4期地域福祉計画及び第4期地域福祉活動計画」の策定を進めています。

これらの計画は、誰もが住みなれた地域で福祉サービスなどを利用しながら健康で明るく生きがいのある生活ができるよう、また、住民の皆さまの主体的な活動による福祉のまちづくりを目指すためのものです。

このアンケート調査は、住民の皆さまの現状や考え、ご意見などをお聞きし、計画策定の基礎資料とするもので、市内にお住まいの18歳以上の方から無作為に抽出した2,800名の方に調査をお願いしております。

調査は無記名であり、ご回答いただいた内容は統計的に処理します。個人の内容を公表するなど、ご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和2年8月 羽曳野市 羽曳野市社会福祉協議会



《ご記入にあたってのお願い》

- 1 封筒宛名のご本人様にご記入ください。ご本人様が記入できない場合は、代理の方がご本人様の意思を尊重してご回答くださいますようお願いいたします。
- 2 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。設問ごとに「○は1つ」「○はいくつでも」など、それぞれ指定されていますので、ご注意ください。
- 3 ご記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒にて、**8月28日（金）までにご返送**ください。

《問い合わせ先》

羽曳野市 保健福祉部 福祉総務課
電 話：072-958-1111（内線1122）
FAX：072-947-3840



お住まいの地域で困りごとはありませんか？

地域福祉とは・・・

「介護」と「子育て」を同時におこなっている、働きたいけど働けない、子育てが不安だけど相談する相手がいない…など、普段の生活の中で困ったことや不安、不便さを感じたことはありませんか。

「地域福祉」とは、そういった問題を家族や友人、近隣住民、事業所、社会福祉協議会や行政などとの連携の中で解決し、「誰もが自分らしく、住みなれた地域で、安心して暮らせるまちをつくっていくこと」を言います。例えば、隣近所の人にあいさつすることや子どもの安全を地域で見守ることなども、地域福祉の活動と言えます。

地域福祉計画がめざすもの

地域の中で、性別や年齢、障害の有無にかかわらず、誰もがその人らしい安心できる生活が送れるよう、「地域の助け合い・支え合い」が当たり前のようにできる社会の実現を目指します。

そのためには、
住民自身の努力による「自助」、
地域住民がお互いに助け合う「共助」、
行政や社会福祉協議会などが取り組む「公助」、
住民と行政がそれぞれの特長を生かしながら「協働」
することが重要です。



地域のことや、日ごろ感じる生活の課題などを一番よく知っている、
地域の皆様の参加と協力が必要不可欠となります。

住民参画の一環として、
アンケート調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

1. あなたご自身のことについて

それぞれの項目ごとに、あてはまる番号を選んでください。

(1) 居住地域 (○は1つ)	1. 古市	2. 駒ヶ谷	3. 西浦
	4. 埴生	5. 丹比	6. 高鷲
(2) 性別 (○は1つ)	7. 羽曳が丘	8. 白鳥	9. 高鷲南
	10. 古市南	11. 恵我之荘	12. 埴生南
(3) 年齢 (○は1つ)	13. 高鷲北	14. 西浦東	
	15. わからない ⇒ 町名をお書きください ()		
(4) 家族構成 (○は1つ)	1. 男性	2. 女性	3. 答えたくない
(5) 住居の種類 (○は1つ)	1. 18~29 歳	2. 30~39 歳	
	3. 40~49 歳	4. 50~59 歳	
(6) 職業 (○は1つ)	5. 60~69 歳	6. 70 歳以上	
	1. ひとり暮らし	2. 夫婦 (事実婚含む) のみ	
(7) 羽曳野市での 居住年数 (○は1つ)	3. 夫婦と子ども (二世帯)	4. 祖父母と親子 (三世帯)	
	5. ひとり親と子ども	6. その他 ()	
(8) 今後の居留意向 (○は1つ)	1. 持ち家 (一戸建て)	2. 持ち家 (マンション)	
	3. 賃貸住宅 (一戸建て)	4. 賃貸住宅 (マンション・アパート)	
(9) 同居家族の中に いる人 (○はいくつでも)	5. 社宅・官舎・寮	6. その他 ()	
	1. 勤め人 (常勤・フルタイム)	2. 勤め人 (非常勤/パート・アルバイトなど)	
(10) 今後の居留意向 (○は1つ)	3. 自営業 (家庭内職者を含む)	4. 家族従業者	
	5. 学生	6. 専業主婦 (主夫も含む)	
(11) 今後の居留意向 (○は1つ)	7. 無職・年金生活者	8. その他 ()	
	1. 1 年未満	2. 1 年以上 5 年未満	
(12) 今後の居留意向 (○は1つ)	3. 5 年以上 10 年未満	4. 10 年以上 30 年未満	
	5. 30 年以上		
(13) 今後の居留意向 (○は1つ)	1. このまま住み続ける予定	2. いずれ転居する予定	
	3. わからない		
(14) 同居家族の中に いる人 (○はいくつでも)	1. 乳児 (1 歳未満)	2. 乳児を除く小学校入学前の幼児	
	3. 小学生	4. 中学生・高校生	
(15) 同居家族の中に いる人 (○はいくつでも)	5. 65 歳以上の人	6. 介護を必要とする人	
	7. 障害のある人	8. いずれもない	

2. 最近の生活状況について

問1 あなたは、2020年3月以降の新型コロナウイルス感染症拡大により、生活において変化したことはありましたか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------|----------------------|
| 1. 外出の機会が減った | 2. 収入が減り生活が苦しくなった |
| 3. 育児や介護の負担が増えた | 4. 近所とのコミュニケーションが減った |
| 5. 友人とのコミュニケーションが減った | 6. 家族とのコミュニケーションが増えた |
| 7. 地域や学校などでの会合が減った | 8. 運動する機会が減った |
| 9. 趣味に費やす時間が増えた | |
| 10. ビデオ通話などのオンラインで会話をする機会が増えた | |
| 11. その他 () | |
| 12. 特にない | |

問2 新型コロナウイルス感染症拡大により、隣組などにおける隣近所の住民同士のコミュニケーションや町会・自治会など地域組織に関わる機会は変わりましたか。(〇は1つ)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 以前に比べると機会が大きく減少した | 2. 以前に比べると機会が少し減少した |
| 3. 以前に比べると機会が大きく増えた | 4. 以前に比べると機会が少し増えた |
| 5. 変わらない | |

問3 新型コロナウイルス感染症拡大により、あなたの気持ちや身体にどのような変化がありましたか。(〇はいくつでも)

- | |
|----------------------------------|
| 1. 感染するかもしれないという不安がある |
| 2. 今まで楽しめていたことが楽しめなくなった |
| 3. 家族・親族や友人などとの交流を避けるようになった |
| 4. 運動の機会が減り体力が低下した |
| 5. 毎日の生活がつらいと感じる |
| 6. 家族の大切さを再確認することができた |
| 7. 家族に対してイライラすることが増えた |
| 8. 働き方の見直しができる |
| 9. 「新しい生活様式※」を取り入れるよう気を付けるようになった |
| 10. 気持ちに余裕ができた |
| 11. その他 () |
| 12. 特にない |

※新しい生活様式…人との距離をとる・マスクの着用・手洗い・3密の回避など。

3. ご近所とのつきあいや地域活動などについて

問4 ご近所との関係は次のどれに最も近いですか。(○は1つ)

1. お互いの家を訪問して話をしたりする人がいる
2. 会えば立ち話をする人がいる
3. 会えばあいさつを交わす人がいる
4. まったく付き合いがない
5. その他 ()

問5 近所づきあいの考え方は、次のどれに近いですか。(○は1つ)

1. 親しく相談したり、助け合ったりするのは必要だと思う
2. わずらわしいと思うが、日常生活に便利なが多いので必要である
3. わずらわしいことが多いので、あまり必要ではない
4. なくても困らないので、必要がない
5. その他 ()

問6 町内会や自治会に加入していますか。(○は1つ)

1. 現在加入している
2. 以前は加入していたが、現在はしていない
3. 加入したことがない
4. 自分の地域にそのような組織があることを知らない

問7 お住まいの地域で、町内会行事などの地域活動に参加していますか。(○は1つ)

1. 現在参加している／参加したことがある
2. 参加したことがないが、機会があれば参加したい
3. 参加したことがなく、今後も参加するつもりはない

問8 地域活動に参加するうえで、支障になることがありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|----------------------|--------------------|
| 1. 忙しくて時間がとれない | 2. 健康や体力に自信がない |
| 3. どのような活動があるのかわからない | 4. 興味の持てる活動が見つからない |
| 5. 身近なところに活動の場がない | 6. 人間関係がわずらわしい |
| 7. 費用がかかる | 8. 家族や職場の支持や理解がない |
| 9. 交通手段がない | 10. その他 () |
| 11. 特にない | |

問9 お住まいの地域で、以下のようなことについてどの程度満足していますか。また、どの程度、重要だと思いますか。(ア～ケのそれぞれについて、○は1つずつ)

	満足度							重要度					
	満足	まあ満足	どちらともいえない	やや不満	不満	わからない		重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	重要でない	わからない
ア あいさつなどの声掛け	1	2	3	4	5	6	→	1	2	3	4	5	6
イ 日頃気軽に集まれる場所	1	2	3	4	5	6	→	1	2	3	4	5	6
ウ まちの清掃活動	1	2	3	4	5	6	→	1	2	3	4	5	6
エ 子どもの登下校の見守り	1	2	3	4	5	6	→	1	2	3	4	5	6
オ 手助けが必要な方へ見守りや目配り	1	2	3	4	5	6	→	1	2	3	4	5	6
カ お祭りなどの行事	1	2	3	4	5	6	→	1	2	3	4	5	6
キ 防災訓練	1	2	3	4	5	6	→	1	2	3	4	5	6
ク 防犯のための巡回	1	2	3	4	5	6	→	1	2	3	4	5	6
ケ 地域で悩みが相談できる関係	1	2	3	4	5	6	→	1	2	3	4	5	6

問10 あなたは、お住まいの地域で、不安に感じていることはありますか。(○はいくつでも)

1. 自治会などの地域活動の担い手が足りなくなっていること
2. 祭りなどの地域行事の担い手が足りなくなっていること
3. 住民同士のふれあいが乏しくなっていること
4. 空き家が増えてきていること
5. 治安が悪くなっていること
6. 高齢者だけの世帯が増えてきていること
7. 管理されていない農地や荒地が増えてきていること
8. スーパーや商店がなくなった、空き店舗が増えてきていること
9. その他 ()
10. 特に問題はない

問 11 地域としての役割や地域の人が協力して取り組むことについて、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は5つまで)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 災害や防災対策 | 2. 生きがいづくり |
| 3. 日常生活の協力支援 | 4. 見守り活動等の相互援助 |
| 5. 世代間の交流 | 6. 自然保護や地域美化活動 |
| 7. 安全や治安への取り組み | 8. 健康づくりへの支援 |
| 9. 教育や子育ての支援 | 10. 高齢者への支援 |
| 11. 障害のある人への支援 | 12. 青少年の健全育成支援 |
| 13. 生活困窮者への支援 | 14. その他 () |
| 15. 特にない | 16. わからない |

問 12 地域としての役割や地域の人が協力して取り組むことについて、**あなた自身**はどのようなことに参加や手助けができると思いますか。(〇は5つまで)

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 災害や防災対策 | 2. 生きがいづくり |
| 3. 日常生活の協力支援 | 4. 見守り活動等の相互援助 |
| 5. 世代間の交流 | 6. 自然保護や地域美化活動 |
| 7. 安全や治安への取り組み | 8. 健康づくりへの支援 |
| 9. 教育や子育ての支援 | 10. 高齢者への支援 |
| 11. 障害のある人への支援 | 12. 青少年の健全育成支援 |
| 13. 生活困窮者への支援 | 14. その他 () |
| 15. 特にない | 16. わからない |

問 13 地域での支え合い活動を進めていくために、どのような取り組みが特に必要だと思いますか。(〇は3つまで)

- | |
|---|
| 1. 日頃から住民一人ひとりの相互のつながり |
| 2. 多様性を認め合い、支え合う意識の啓発 |
| 3. 地域(支え合い)活動のリーダー的人材の発掘及び育成 |
| 4. 地域課題の共有や解決を目的とする連絡会やネットワークの形成 |
| 5. 自治会が中心となって、住民相互の交流活動を積極的に進めること |
| 6. 公民館等の地域活動の機能を強化すること |
| 7. ボランティアやNPO団体の活動を盛んにすること |
| 8. 行政による地域福祉活動の相談窓口や活動団体への支援体制を充実させること |
| 9. 社会福祉協議会による活動を充実させること |
| 10. 行政、社会福祉協議会、事業者、ボランティア、NPO等と住民組織との連携 |
| 11. その他 () |
| 12. 特にない |

4. 福祉への関心について

問 14 「福祉」に関心がありますか。(○は1つ)

- | | |
|--------------|--------------|
| 1. 関心がある | 2. ある程度関心がある |
| 3. どちらともいえない | 4. あまり関心がない |
| 5. 関心がない | |

→問 14 で「1. 関心がある」、「2. ある程度関心がある」と回答した方に

問 14-1 関心がある福祉はどのような分野ですか。(○はいくつでも)

- | | |
|------------------------|--------------------|
| 1. 子どもに関する福祉 | 2. ひとり親家庭に関する福祉 |
| 3. 高齢者に関する福祉 | 4. 認知症の人に関する福祉 |
| 5. 病気療養中の人に関する福祉 | 6. 寝たきりの人に関する福祉 |
| 7. 閉じこもりや引きこもりの人に関する福祉 | 8. 身体障害のある人に関する福祉 |
| 9. 知的障害のある人に関する福祉 | 10. 精神障害のある人に関する福祉 |
| 11. 生活困窮者に関する福祉 | 12. その他 () |

再び、全ての方に

問 15 次のような考え方についてどう思いますか。(ア～クについて、○は1つずつ)

	そう 思う	まあ そう 思う	い ど ち ら と も い え な い	そ う あ ま り 思 わ な い	そ う 思 わ な い
ア 障害のある人となない人が、ともに生きるため、役所や事業所は、社会の中にあるバリアを取り除くべき	1	2	3	4	5
イ 生活保護を受けている人に対する偏見や差別がある	1	2	3	4	5
ウ ひとり親家庭の自立を支援するために、地域のつながりが重要	1	2	3	4	5
エ 虐待を防ぐために、地域のつながりが重要	1	2	3	4	5
オ DV（ドメスティックバイオレンス）被害を防ぐために、地域のつながりが重要	1	2	3	4	5
カ 認知症の人やその家族を支えるためには、地域のつながりが重要	1	2	3	4	5
キ ひきこもりやニートは、本人だけでなく社会全体の問題	1	2	3	4	5
ク ホームレスの問題は、本人だけでなく、社会全体の問題	1	2	3	4	5

5. ボランティア活動について

問16 小学校区での地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。(○は1つ)

- | | |
|---|----------------|
| 1. 現在活動している | 2. 以前活動したことがある |
| 3. 活動したことがない ⇒問16-2にお進みください。 | |
| 4. 活動したことはないが条件が合えば参加したい ⇒問16-2・問16-3にお進みください | |

→ 問16で「1. 現在活動している」または「2. 以前活動したことがある」と回答した方に

問16-1 現在取り組んでいる、または取り組んだことがあるボランティア活動や助け合い活動の具体的な内容は次のどれですか。(○はいくつでも)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 福祉施設での活動・慰問など | 2. 地域での見守り活動(相談や安否確認) |
| 3. 教育・学習の支援 | 4. 障害のある人への支援 |
| 5. 子ども会活動の支援 | 6. 国際・異年齢交流 |
| 7. 災害時の支援 | 8. 被災者への支援 |
| 9. 交通安全活動 | 10. 防火・防犯活動 |
| 11. 各種福祉事業のスタッフ協力 | 12. スポーツやレクリエーション活動の支援 |
| 13. 文化・芸術活動支援 | 14. 地域振興活動支援 |
| 15. 子育て支援 | 16. 資金援助(募金活動、寄附も含む) |
| 17. 環境美化活動・エコ活動 | 18. その他() |

問16で「3. 活動したことがない」または「4. 活動したことはないが条件が合えば参加したい」と回答した方に

問16-2 ボランティア活動や助け合い活動に参加していない理由は、次のどれですか。

(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1. 仕事や家事が忙しく時間が取れないから | 2. 小さな子どもや介護を必要とする家族がいるから |
| 3. 興味や関心の持てる活動がないから | 4. 健康に自信がないから |
| 5. 身近に活動グループや仲間がいないから | 6. 経済的な余裕がないから |
| 7. 家族や職場の理解が得られないから | 8. 参加する必要性を感じないから |
| 9. 人と接することが好きではないから | 10. その他() |

問16で「4. 活動したことはないが条件が合えば参加したい」と回答した方に

問16-3 どのような条件があれば、ボランティア活動や助け合い活動に参加できますか。

(○はいくつでも)

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. きっかけさえあれば | 2. 出勤前などの短時間であれば |
| 3. 自宅の近くでできることがあれば | 4. 研修を受けられたら |
| 5. 近所の人など、顔見知りの人の手伝いであれば | 6. 近所でない、知らない人の手伝いであれば |
| 7. お金の負担がなければ | 8. 少しでも報酬がもらえるのであれば |
| 9. その他() | |

問17 どのような支援があると、ボランティア活動が行いやすいと思いますか。(〇はいくつでも)

1. ボランティア活動に関する情報提供
2. ボランティア活動先の紹介（マッチング）
3. ボランティア活動に関する研修会の機会
4. ボランティア活動者同士の交流の場
5. ボランティア活動に対する職場の理解
6. ボランティア休暇等、職場からの支援
7. ボランティアに関する活動費の補助（交通費等）
8. ボランティア活動に対する証明書などの発行
9. ボランティア活動に対する相談対応
10. その他（ ）
11. 特になし

問 18 あなたは、羽曳野市社会福祉協議会について、ご存知ですか。(○は1つ)

1. 名前も、活動内容も知っている
2. 名前だけでなく、活動内容も少し知っている
3. 名前だけは知っているが、活動内容は知らない
4. 知らない（初めて聞いた）

1. 福祉総合相談などの相談事業
2. 校区福祉委員会活動（小地域ネットワーク活動）推進事業
3. ふれあいネット雅び推進事業
4. ボランティア活動推進事業
5. 一人暮らし高齢者会食会事業
6. 在宅福祉サービス事業（移送サービス、車いすの貸出）
7. 福祉サービスに関わる支援事業（日常生活自立支援事業）
8. 生活福祉資金の貸付事業
9. 介護保険事業（ケアプランの作成、ホームヘルパー派遣など）
10. 保育園運営（あおぞら保育園・ベビーハウス社協）
11. 当事者組織の育成と援助（介護者家族の会）
12. 生活困窮に関する相談事業（生活困窮者自立支援事業）
13. 地域福祉活動協力金および募金活動（日赤社資募集・共同募金・歳末たすけあい運動募金）
14. 福祉基金（寄付の受付）
15. 広報活動「社協だより」等の発行
16. いずれも知らない

問 20 あなたは、民生委員・児童委員の役割をご存知ですか。(○は1つ)

- | | |
|------------|--------------|
| 1. よく知っている | 2. ある程度知っている |
| 3. あまり知らない | 4. まったく知らない |

問 21 あなたは、民生委員・児童委員に今後、どのようなことを期待しますか。(○は3つまで)

- | |
|---|
| 1. 地域の子どもや一人暮らし高齢者等の見守り |
| 2. 福祉サービス等に関する地域住民への情報提供 |
| 3. 地域住民が福祉に関して困ったときに身近で相談にのること |
| 4. 相談のあったこと等について行政や福祉の専門機関につなぎ、連絡・調整を行うこと |
| 5. 社会福祉協議会等、地域の福祉団体の活動に協力すること |
| 6. 自治会や地域住民と連携して、地域の行事を行うこと |
| 7. 民生委員・児童委員同士が協力し、地域の福祉ニーズに合った事業をすること |
| 8. 地震等の災害時に支援が必要な地域住民を把握し、関係者とともに支援体制をつくること |
| 9. その他 () |
| 10. 特に期待することはない |

問 22 コミュニティソーシャルワーカー (CSW) についておたずねします。

コミュニティソーシャルワーカー (CSW) とは、高齢者・障害のある人・子どもなどの分野に関わらず、相談を受けて、その人や家族が必要とする援助内容に応じて、関係機関と協力しながらサービスを調整して提供する、市が配置する福祉専門職です。羽曳野市では、東部 (市役所)、西部 (社協西部事務所)、中部 (四天王寺悲田院) の3か所に配置されています。

① 羽曳野市には、現在3人のコミュニティソーシャルワーカー (CSW) がいますが、あなたはそれを知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 名称も内容も知っている | 2. 名称は知っているが、内容はよく知らない |
| 3. 名称も内容もまったく知らない | |

② あなたは、ふだんの生活で困ったことがあったとき、「コミュニティソーシャルワーカー (CSW)」に相談したいと思いませんか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|--------------------|
| 1. 相談したいと思う | 2. 内容によっては相談したいと思う |
| 3. 相談したいと思わない | |

問 23 あなたは、羽曳野市内の各地域で「ふれあいネット雅び」という名称の地域福祉推進チーム会議があることをご存知ですか。(○は1つ)

- | | |
|------------|--------------|
| 1. よく知っている | 2. ある程度知っている |
| 3. あまり知らない | 4. まったく知らない |

7. 各種制度について

問 24 成年後見制度について知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 名称も内容も知っている | 2. 名称は知っているが、内容はよく知らない |
| 3. 名称も内容もまったく知らない | |

問 25 生活困窮者自立支援法について知っていますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. 名称も内容も知っている | 2. 名称は知っているが、内容はよく知らない |
| 3. 名称も内容もまったく知らない | |

平成 25 年 12 月に「生活困窮者自立支援法」が成立し、この法律に基づき、平成 27 年 4 月から、全国の自治体において新しい福祉制度として「生活困窮者自立支援制度」がスタートしました。この制度では、経済的に苦しく、最低限度の生活を維持することができなくなる心配がある者を支援することを目指しています。羽曳野市では、社会福祉協議会に相談窓口を設置しています。

問 26 あなたの身のまわりに、上記の生活困窮者として想定される例に該当するような気になる人はいいますか。(○は1つ)

- | | |
|-------------|--------------|
| 1. 気になる人がいる | 2. 気になる人はいない |
|-------------|--------------|

→ 問 26 で「1. 気になる人がいる」と回答した方に

問26-1 地域の中の「生活困窮者」のことについて、市役所や府などの行政機関に相談したことはありますか。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 行政の担当窓口相談した | 2. 地域の民生委員に相談した |
| 3. 地域包括支援センターに相談した | 4. 障害のある方の相談機関に相談した |
| 5. 生活困窮自立支援相談窓口相談した | 6. その他 () |
| 7. 相談・報告などはしなかった | |

→ 問 26-1 で「7. 相談・報告などはしなかった」と回答した方に

問26-2 その理由を教えてください。(○はいくつでも)

- | |
|-------------------------------|
| 1. 本人が自分で相談する・していると思ったから |
| 2. 地域の民生委員などが把握して対応していると思ったから |
| 3. 行政の担当者が把握して対応していると思ったから |
| 4. 自分が相談・報告することではないと思ったから |
| 5. 本人のプライバシーに関わることだから |
| 6. どこに相談したらよいかわからなかったから |
| 7. その他 () |

8. 災害時の対策について

問 27 風水害や地震などの災害が起こったとき、あなたは自分自身がどこに避難すればいいか知っていますか。(〇は1つ)

- | | |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 28 風水害や地震などが起こった時、あなたは、一人で避難できますか。(〇は1つ)

- | | |
|---------|------------------------|
| 1. できる | 2. 誰かの声かけ(安否確認)があればできる |
| 3. できない | 4. その他() |

問 29 災害時に支援を必要とする人への支援対策として、何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 避難行動要支援者※がどこにいるのか、要介護・障害の状態の把握
2. 避難行動要支援者の避難を支援する人(避難支援者)の決定
3. 災害発生時に、避難支援のため避難情報を伝える方法の確認
4. 避難行動要支援者の安否確認・救助・避難誘導体制(手順)の確立
5. 避難行動要支援者向けの避難所(車いす対応トイレ、乳幼児対応設備など)の確保
6. 高齢者や乳幼児などの要配慮者向けの物資の備蓄
7. 避難所で継続が必要とされる福祉サービスの量の把握
8. 地域での日常的な避難支援体制づくり
9. ボランティアの受け入れ態勢の確立
10. 避難支援を想定した防災訓練等の実施
11. その他() |
|--|

※避難行動要支援者…高齢者、障害のある人、乳幼児などの、防災施策において特に配慮を要する方(要配慮者)のうち、災害発生時の避難等に特に支援を要する方のこと。

問 30 災害時における避難行動要支援者にどのような手助けや対応ができますか。(〇はいくつでも)

- | |
|---|
| 1. 避難が必要な避難行動要支援者の避難の手助け
2. 安否の確認や情報伝達などの声かけ
3. 避難所での身の回りの世話
4. その他()
5. 手助けや対応はできない |
|---|

問 31 あなたやご家族は、自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えてどのような対策をとっていますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------|----------------------------|
| 1. 避難場所の位置を確認している | 2. 実際に避難場所まで行き、避難経路を確認している |
| 3. 家族との連絡方法を決めている | 4. 地域の避難訓練に参加している |
| 5. その他() | 6. 特に何もしていない |

9. 生活上の悩みや手助け等について

問32 あなたは、ふだんの生活で同居の家族以外の手助けが必要になったとき、①どこに相談していますか。②また、実際に助けてくれる人はどこにいますか。(それぞれ〇はいくつでも)

	① 相談できる人	② 助けてくれる人
別に暮らしている家族	1	1
近所の人	2	2
友人、知人	3	3
民生委員・児童委員	4	4
区長など、町内会・自治会の役員	5	5
ボランティア	6	6
身体障害者・知的障害者相談員	7	7
保育士・幼稚園教諭・小中学校の先生	8	8
介護サービス事業所職員 (在宅介護支援センター・ケアマネジャー・ヘルパーなど)	9	9
地域包括支援センター	10	10
障害福祉サービス事業所や社会福祉施設の職員	11	11
子育て支援センター・ファミリーサポートセンター	12	12
子ども家庭センター・家庭児童相談室	13	13
大阪府障害者自立相談支援センター	14	14
かかりつけの医師・薬局	15	15
コミュニティソーシャルワーカー (CSW)	16	16
市役所の福祉部局の職員	17	17
市役所の福祉部局以外の相談窓口	18	18
社会福祉協議会	19	19
藤井寺保健所	20	20
精神保健相談員 (保健所の、精神障害に関する相談に応じる職員)	21	21
介護者家族の会などの当事者団体	22	22
その他 ()	23	23
相談する人 (助けてくれる人) はいない	24	24

問33 あなたは、福祉サービスに関する情報をどこから入手していますか（〇はいくつでも）

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 1. 隣近所 | 2. 市役所（窓口、ホームページ等） |
| 3. 社会福祉協議会（窓口、ホームページ等） | 4. 行政区長や町内会・自治会等 |
| 5. 民生委員・児童委員 | 6. 地域包括支援センターや障害者相談支援事業所 |
| 7. ケアマネジャーやホームヘルパー等 | 8. 福祉関係団体 |
| 9. 医療機関や福祉サービス事業所 | 10. 保育所、幼稚園、学校等 |
| 11. 所属している団体やサークル等 | 12. ボランティア・NPO |
| 13. 新聞・雑誌・テレビ・ラジオ | 14. インターネットやSNS |
| 15. その他（ ） | 16. 福祉（サービス）に関する情報が入ってこない |

10. 今後の福祉行政のあり方について

問 34 これからの地域づくりと住民との関わりについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。（〇は1つ）

- | |
|---|
| 1. 住民が地域づくりにできるだけ主体的に関わるべきだと思う |
| 2. 地域づくりは専門家や専門機関が主体的に行い、住民はそのお手伝いをするべきだと思う |
| 3. 行政と地域住民などが相互に協力しあっていくべきだと思う |
| 4. 地域づくりは行政が主体的に行うべきであって、地域住民が関わるのは難しいと思う |
| 5. その他（ ） |
| 6. わからない |

問 35 羽曳野市の地域福祉に対してどのような印象をお持ちですか。（①～⑤について、〇は1つずつ）

	そう 思う	まあ そう 思う	どちら とも いえ ない	そあ まり 思 わ ない	そう 思 わ ない
① 子育て家庭が暮らしやすいまち	1	2	3	4	5
② 障害のある方が暮らしやすいまち	1	2	3	4	5
③ 高齢者が暮らしやすいまち	1	2	3	4	5
④ 地域住民の活動が盛んなまち	1	2	3	4	5
⑤ 困ったときに、隣近所で助け合えるまち	1	2	3	4	5

問36 あなたやあなたの家族にとって、羽曳野市は「暮らしやすいまち」だと思いますか。（〇は1つ）

- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1. 暮らしやすい | 2. どちらかといえば暮らしやすい |
| 3. どちらかといえば暮らしにくい | 4. 暮らしにくい |

1. 福祉・保健サービスに関する情報提供を充実させる
2. 身近な所で相談できる窓口を充実させる
3. 多様なニーズに応えるようサービスの種類を増やす
4. 福祉・保健サービスを提供する事業者を増やす
5. 地区やとなり近所で支えあう体制を充実させる
6. 地域福祉に関するボランティア活動を活発にする
7. 地域福祉活動の中心となる住民（地域福祉のリーダー）を育てる
8. 地域福祉活動の拠点となる場所をつくる
9. 福祉・保健に関する住民への啓発を行う
10. 学校における福祉教育を充実させる
11. 防災に関する住民への啓発を行う
12. バリアフリー化などの環境整備を進める
13. 福祉に関わる既存の組織のネットワーク化を進める
14. その他（ ）
15. 特にない

```

graph LR
    A[1. 住み続けたい] --> B[2. なるべく住み続けたい]
    B --> C[3. できれば市外に移りたい]
    C --> D[4. ぜひ市外へ移りたい]
    C & D --> E[市外に移りたいのは、どうしてですか。]
  
```

--

70

地域福祉に関するアンケート調査結果報告書

(令和3年3月)

編集・発行

羽曳野市 保健福祉部 福祉総務課

〒583-8585

羽曳野市誉田4丁目1番1号

TEL : 072-958-1111 (代表)

FAX : 072-947-3840

社会福祉法人 羽曳野市社会福祉協議会

〒583-8585

羽曳野市誉田4丁目1番1号

TEL : 072-958-2315

FAX : 072-958-3853